

# 泉 沢 谷 津 遺 跡

昭和59年度県営圃場整備事業荒砥北部  
地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告

《遺物観察表・写真図版編》

2005

群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 泉 沢 谷 津 遺 跡

昭和59年度県営圃場整備事業荒砥北部  
地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告

《遺物観察表・写真図版編》

2 0 0 5

群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 例 言

本書は1984（昭和59）年度の県営團場整備事業荒砥北部地区に係わる泉沢谷津遺跡の発掘調査報告書の分冊〈写真図版・遺物観察表編〉である。本書の内容に係わる凡例については、以下に示す。

## 遺物観察表

1. 縄文土器、縄文時代石器、土器や陶磁器、古墳時代の石器や金属器・木器で異なった書式を用いている。
2. 遺物は本文編第4章に掲載した遺構毎に、挿図番号順に並べた。
3. 出土状況のうち、②の+は床面あるいは底面からの高さをcm単位で示し、-は遺構確認面からの深さを示している。
4. 遺物の計測値は、口→口縁部径、底→底部径、高→器高、脚→脚部下端径、台→高台部下端径を示している。記載の中で、（ ）は復元値、〈 〉は欠損のある遺物の残存値を示している。  
各数値の単位は、補足の無い限りcm、重さgである。
5. ①胎土は縄文土器に関しては3頁に記した分類に沿って略記号で表した。古墳時代の土器に関しては主な混入物について記し、中世以降の土器・陶磁器については胎土の概観を記してある。
6. ③色調の表記について、縄文土器、土師器・須恵器には『新版標準土色帖』を用いて、最も広い面積を占める部分の色名と記号を記した。中世以降の土器・陶磁器については慣用的な色彩表記となっている。
7. 備考については主に焼成後の状況を記したが、陶磁器には推定産地を付け加えた。

## 写真図版

1. 写真図版は遺構と遺物に分けて、それぞれ本文の記載順に掲載した。ただし遺物についてはレイアウトの都合で一部順序の乱れた所もある。
2. 遺物は残存状態の良い物を掲載したため、小破片を中心に掲載していないものも多い。縮率は本文挿図に合わせるよう努めたが、不同の部分も多い。

## 遺物観察表目次

1. 縄文時代の出土遺物		3. 古墳出土遺物	
14号住居出土土器	1	1号墳	23
遺構外出土の縄文土器	1	2号墳	23
14号住居出土石器	3	3号墳	23
遺構外出土の縄文時代石器	3	4. 古墳時代の土坑出土遺物	
2. 竪穴住居出土遺物		1号土坑	24
1号住居	4	5. 井戸出土遺物	
2号住居	5	4号井戸	25
3号住居	6	5号井戸	26
4号住居	8	7号井戸	27
5号住居	10	6. 土坑出土遺物	
6号住居	11	5号土坑	28
7号住居	13	6号土坑	29
8号住居	13	10号土坑	29
9号住居	15	7. 溝出土遺物	
10号住居	15	1号溝	29
11号住居	20	4号溝	31
12号住居	21	8. 遺構外出土の遺物	31
13号住居	21		

## 写真図版目次

PL 1-1	泉沢谷津遺跡の位置と周辺の地形	PL 5-1	1号住居（西から）
PL 2-1	泉沢谷津遺跡の位置（南から）	2	2号住居（北から）
2	泉沢谷津遺跡の位置（北から）	PL 6-1	1号住居竪穴と遺物出土状況（北から）
PL 3-1	調査前の遺跡地（北から）	2	1号住居竪穴と遺物出土状況（南から）
2	調査前の遺跡地（北東から）	3	2号住居遺物出土状況（西から）
3	調査前の遺跡地（疎散状況）	4	2号住居貯蔵穴（東から）
4	調査風景（遺構確認）	5	2号住居竪穴と遺物出土状況（西から）
5	調査風景（縄文時代遺構確認）	6	2号住居竪穴（西から）
6	調査風景（1号墳石室）	7	2号住居床下土坑遺物出土状況（南から）
7	基本土層	8	2号住居床下土坑炭化米出土状況（北から）
PL 4-1	14号住居遺物出土状況（北から）	PL 7-1	3号住居（北西から）
2	14号住居（北から）	2	3号住居竪穴遺物出土状況（西から）
3	14号住居裡窓（1）出土状況（北から）	3	3号住居貯蔵穴（北西から）
4	14号住居遺物（2）出土状況（北から）	4	3号住居遺物出土状況（南西から）
5	9号土坑（西から）	5	3号住居竪穴（南西から）

- PL8-1 4号住居 (西から)  
 2 4号住居竈と遺物出土状況 (西から)  
 3 4号住居竈 (西から)  
 4 4号住居貯蔵穴 (西から)  
 5 4号住居貯蔵穴内遺物出土状況 (東から)
- PL9-1 5号住居 (西から)  
 2 5号住居東側遺物出土状況 (西から)  
 3 5号住居北東隅遺物出土状況 (西から)  
 4 5号住居竈と遺物出土状況 (西から)  
 5 5号住居竈断面 (北西から)
- PL10-1 6号住居 (西から)  
 2 6号住居北東隅遺物出土状況 (西から)  
 3 6号住居中央遺物出土状況 (北から)  
 4 6号住居竈と遺物出土状況 (西から)  
 5 6号住居竈 (西から)
- PL11-1 7号住居 (西から)  
 2 7号住居東側遺物出土状況 (西から)  
 3 7号住居竈と遺物出土状況 (南から)  
 4 7号住居竈 (西から)  
 5 7号住居貯蔵穴遺物出土状況 (南から)  
 6 7号住居貯蔵穴 (西から)  
 7 7号住居鎌 (10) 出土状況 (東から)  
 8 7号住居鉢 (11) 出土状況 (東から)
- PL12-1 8号住居 (北から)  
 2 8号住居南側遺物出土状況 (東から)  
 3 8号住居貯蔵穴と遺物出土状況 (南から)  
 4 8号住居竈と遺物出土状況 (北から)  
 5 8号住居遺物 (13) 出土状況 (東から)
- PL13-1 9号住居 (西から)  
 2 9号住居竈 (西から)  
 3 9号住居貯蔵穴 (東から)  
 4 13号住居 (南から)  
 5 13号住居南東隅遺物出土状況 (西から)  
 6 13号住居中央遺物 (22) 出土状況 (北から)  
 7 13号住居竈遺物出土状況 (西から)  
 8 13号住居竈 (南から)
- PL14-1 10号住居 (北から)  
 2 10号住居遺物出土状況 (北から)  
 3 10号住居北側遺物出土状況 (東から)  
 4 10号住居北東側遺物出土状況 (南から)  
 5 10号住居竈遺物出土状況 (北から)
- 6 10号住居竈 (北から)  
 7 10号住居貯蔵穴 (北から)  
 8 10号住居炭化材出土状況 (南西から)
- PL15-1 11号住居 (北から)  
 2 11号住居南東側遺物出土状況 (北から)  
 3 11号住居中央遺物出土状況 (北から)  
 4 11号住居竈 (北から)  
 5 11号住居竈とその周辺 (北西から)
- PL16-1 12号住居 (南西から)  
 2 12号住居埋没土堆積状況 (南から)  
 3 12号住居竈 (南西から)  
 4 12号住居貯蔵穴 (東から)  
 5 12号住居磁石 (6) 出土状況 (西から)
- PL17-1 1号墳 (南から)  
 2 1号墳横穴式石室 (東から)  
 3 1号墳横穴式石室 (西から)
- PL18-1 1号墳横穴式石室 (南から)  
 2 1号墳横穴式石室羨道部 (南から)  
 3 1号墳横穴式石室羨道部 (北から)  
 4 1号墳横穴式石室奥壁 (南から)  
 5 1号墳横穴式石室右袖部分 (北から)  
 6 1号墳横穴式石室右奥隅 (南から)  
 7 1号墳横穴式石室廻り方 (南から)  
 8 1号墳横穴式石室廻り方土層断面 (南から)
- PL19-1 2号墳 (南から)  
 2 2号墳横穴式石室羨道部 (南から)  
 3 2号墳横穴式石室奥壁 (南から)  
 4 2号墳横穴式石室 (東から)  
 5 2号墳横穴式石室廻り方土層堆積状況 (南から)
- PL20-1 3号墳 (南から)  
 2 3号墳横穴式石室 (南から)  
 3 3号墳横穴式石室 (北から)  
 4 3号墳横穴式石室玄室入り口 (東から)  
 5 3号墳横穴式石室奥壁 (南から)
- PL21-1 1号土坑 (北から)  
 2 1号土坑土層堆積状況 (北から)  
 3 1号掘立柱建物 (北西から)  
 4 2号掘立柱建物 (北東から)  
 5 3号掘立柱建物 (北西から)  
 6 4号掘立柱建物 (北西から)

	7	5号掘立柱建物（東から）	PL26	14号住居・9号土坑出土石器、縄文時代の土器
	8	6号掘立柱建物（南から）		
PL22-1	1	1号井戸（北から）	PL27	縄文時代の土器
	2	2号井戸（東から）	PL28	縄文時代の土器と石器
	3	3号井戸（北西から）	PL29	縄文時代の石器
	4	3号井戸足場の痕跡	PL30	1号・2号住居の出土遺物
	5	4号井戸（東から）	PL31	2号・3号住居の出土遺物
	6	5号井戸（南から）	PL32	3号・4号住居の出土遺物
	7	6号井戸（北から）	PL33	4号・5号住居の出土遺物
	8	7号井戸（北から）	PL34	5号・6号住居の出土遺物
PL23-1	1	3号土坑（東から）	PL35	6号・7号住居の出土遺物
	2	4号土坑（北東から）	PL36	7号・8号住居の出土遺物
	3	5号土坑（北から）	PL37	8号・9号・10号住居の出土遺物
	4	6号土坑（北から）	PL38	10号住居の出土遺物
	5	7号土坑（北から）	PL39	10号住居の出土遺物
	6	8号土坑（北東から）	PL40	10号住居の出土遺物
	7	10号土坑（東から）	PL41	10号住居・11号住居の出土遺物
	8	11号土坑（北東から）	PL42	11号・12号・13号住居の出土遺物
PL24-1	1	1号溝（北から）	PL43	13号住居・3号墳出土遺物
	2	4号溝（東から）	PL44	1号墳・2号墳・1号土坑の出土遺物
	3	1号溝土層堆積状況（南から）	PL45	1号土坑・井戸の出土遺物
	4	2号溝（北から）	PL46	井戸・溝・土坑の出土遺物
	5	3号溝（北から）	PL47	炭化材樹種
	6	小穴群（北から）	PL48	炭化米
PL25		14号住居の出土遺物		



14号住居出土土器 (第13図、P.L.25)

番号	器種	出土状態	大きさ (cm)	①胎土②焼成③色調④残存	縄文 原形	文様・器形の特徴	備考
1	深鉢	埋没土器	口27.5	①A②普通③縹5YR6/6④口縁-胴下半	R.L	1・2を除いて、文様構成や器形の明瞭なものはないが、7・8は1と共に連文土器であり、8・10-13は口縁部に渦巻文や横円文を施す加曽利E2式新段階のものと考えられる。また、台付深鉢の3・4や条線を施文とする5・6等は、曾利式の影響を受けたものであろう。	連文土器
2	器台	柱穴8内	台(17) 底21.1	①A②普通③浅黄2.5Y7/6④台-底部1/2高8.8			加曽利E2式
3	台付深鉢	埋没土中		①A②良好③純い縹7.5YR7/6④白部1/2			曾利式系
4	台付深鉢	+9		①A②良好③純い貴橙10YR7/4④胴-上部	照L		曾利式系
5	深鉢	+12	底7.4	①A②良好③純い縹7.5YR6/4④底部	R.L		曾利式系
6	深鉢	+5		①A②良好③純い貴橙10YR6/3④胴部			曾利式系
7	深鉢	埋没土中		①A②良好③純い浅黄橙10YR8/4④胴破片	L.R		連文土器
8	深鉢	埋没土中		①A②良好③縹10YR6/6④胴破片	L.R		加曽利E2式
9	深鉢	埋没土中		①A②良好③縹7.5YR6/4④胴破片	R.L		加曽利E2式
10	深鉢	埋没土中		①A②良好③純い貴橙10YR7/4④口縁破片	L.R.L		加曽利E2式
11	深鉢	埋没土中	底(10)	①A②良好③純い縹10YR7/4④底1/2			加曽利E2式
12	深鉢	床面直上	底8.3	①A②良好③純い縹10YR7/4④底部	R.L		加曽利E2式
13	深鉢	埋没土中		①A②良好③純い縹10YR6/4④口縁破片			加曽利E2式

遺構外出土の縄文土器 (第17~22図、P.L.26~28)

番号	器種	出土状態	大きさ (cm)	①胎土②焼成③色調④残存	縄文 原形	文様・器形の特徴	備考
1	深鉢	2墳丘	底(9)	①A②良好③純い縹7.5YR7/4④底部			1・2・10・12-18・20-25・30は、口縁部に渦巻文や横円文を施すもので、加曽利E2式新段階-同E2式古段階に比定される。胴部には2・3・本単位の沈線型垂文が施され、13・16などはその文様間の地文を磨り消している。
2	深鉢	3墳周縁		①A②良好③純い縹7.5YR6/3④口縁破片	L.R		縄文は、単部R.Lを主体にL.Rや渦巻文が僅かに認められるが、複部文の20・23は、E3式中段階と想定される。
3	甕	2墳周縁	口(25)	①A②良好③浅黄橙10YR7/3④口縁破片			R.L・3・6・9・11は、胴部中位に最大径をもつ樽状の変形土器であり、地文に縦糸状の沈線文を施す点でも特徴的である。先づ土器群としては系統を異にするもので、「龍戸式」の系統上に位置すると考えられる。
4	深鉢	M-2G		①A②良好③縹7.5YR7/6④胴破片			19は附け付有孔土器であるが、体部文様については不明。
5	深鉢	M-2G		①A②良好③縹7.5YR6/6④胴破片			26-29は、口縁部から胴部下平にかけて、筒曲状工具による条線文が縦位に施されたもので、他の文様を持たない。
6	深鉢	M-2G		①A②良好③縹7.5YR6/6④口縁破片	L.R		高、3・8、5・7・11、20・23の各破片は各々同一個体である。
7	深鉢	M-2G		①A②良好③赤褐色2.5YR5/6④胴破片			
8	深鉢	P-1G		①A②良好③浅黄橙10YR7/3④胴破片	R.L.R		
9	深鉢	2墳周縁		①A②良好③純い縹7.5YR7/4④胴破片	R.L		
10	深鉢	M-2G		①A②良好③純い縹7.5YR6/4④口縁破片			
11	深鉢	2墳周縁		①A②良好③縹7.5YR6/6④口縁破片	L.R		
12	深鉢	M-2G		①A②良好③灰褐色7.5YR6/2④胴破片	R.L		
13	深鉢	6住理土		①A②良好③純い貴橙10YR7/3④胴破片	R.L		
14	深鉢	1-16G		①A②良好③純い縹7.5YR6/4④胴破片	R.L		
15	深鉢	13住理土		①A②良好③純い貴橙10YR7/4④底破片	L.R		
16	深鉢	1住理内		①A②良好③純い貴橙10YR7/9④底破片	R.L		
17	深鉢	J-K-7・8		①A②良好③純い縹10YR7/4④口縁破片	L.R		
18	深鉢	2墳丘		①A②良好③純い縹5YR6/4④胴破片	R.L		
19	有孔附付	表探	口(14)	①A②良好③縹7.5YR2/1④口縁破片			
20	深鉢	P-6G		①A②良好③純い縹7.5YR6/4④胴破片	R.L.R		
21	深鉢	M-N-4G		①A②良好③純い貴橙10YR7/3④胴破片	R.L		
22	深鉢	P-1G		①A②良好③純い貴橙10YR7/4④胴破片	R.L		
23	深鉢	P-16G		①A②良好③純い縹5YR7/4④胴破片	R.L.R		
24	深鉢	3墳周縁		①A②良好③浅黄2.5Y7/3④胴破片	R.L		
25	深鉢	M-2G	底(8)	①A②良好③純い貴橙10YR7/4④底破片	R.L		
26	深鉢	M-2G		①A②良好③浅黄2.5Y8/3④口縁破片			
27	深鉢			①A②良好③灰褐色7.5YR6/2④胴破片			
28	深鉢	G-11G		①A②良好③浅黄2.5Y8/3④胴破片			
29	深鉢	H-15G		①A②良好③純い貴橙5YR6/4④胴破片			
30	深鉢	表探		①A②良好③純い縹10YR7/4④胴破片	照L		
31	浅鉢	表探		①A②良好③縹5YR6/6④口縁破片			31-40は無文の浅鉢土器であり、内外ともに横位の強でや研削が施されている。部分的に鎌やベンガラを思わせる痕跡もあり、彩文の施された可能性もあるが、断定できない。
32	浅鉢	3墳丘		①A②良好③明赤褐色5YR5/6④口縁破片			加E2-E3式
33	浅鉢	H-16G		①A②良好③浅黄2.5Y7/3④口縁破片			加E2-E3式
34	浅鉢	8住理土		①A②良好③純い貴橙10YR7/3④口縁破片			加E2-E3式
35	浅鉢	F-12G		①A②良好③縹5YR6/6④口縁破片			加E2-E3式
36	浅鉢	F-9G		①A②良好③赤褐色5YR4/6④口縁破片			加E2-E3式
37	浅鉢	13住理土		①A②良好③明赤褐色5YR5/6④口縁破片			加E2-E3式
38	浅鉢	表探		①A②良好③赤褐色5YR4/6④口縁破片			加E2-E3式
39	浅鉢	2墳丘		①A②良好③純い貴橙10YR7/4④口縁破片			加E2-E3式
40	浅鉢	P-1G	口(46)	①A②良好③純い貴橙10YR7/4④口縁破片			加E2-E3式

## 縄文時代の遺物

番号	器種	出土状態	大きさ (cm)	①胎土②焼成③色調④残存	縄文 原体	文様・器形の特徴	備考
41	深鉢	K-8 G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR7/3④口縁破片		41-43・45-47は、口縁部に渦巻文を施す加曾利E3式中	加曾利E3式
42	深鉢	表採		①A②良好③鈍い黄褐色5YR6/4④口縁破片		渦巻文を施す加曾利E3式中	加曾利E3式
43	深鉢	裏採		①A②良好③鈍い黄褐色5YR6/6④口縁破片	R L	～新段階に、44は特名寺。式	加曾利E3式
44	深鉢	2溝・3墳		①A②良好③淡黄2.5YR/4④割破片	L R	に、48は期之内1式に、それ	特名寺1式
45	深鉢	6住理土		①A②良好③鈍い黄褐色5YR6/4④割破片	R L	れこれ比定される深鉢土器である	加曾利E3式
46	深鉢	3住籠内		①A②良好③鈍い黄褐色10YR7/3④割破片	R L		加曾利E3式
47	深鉢	3墳丘		①A②良好③鈍い黄褐色10YR7/4④割破片	R L	41・42の口縁は、波状を呈す	加曾利E3式
48	深鉢	3住籠内		①A②良好③淡黄褐色10YR8/4④割破片		る。	堀之内1式
49	深鉢	J-K-6-8G		①A②良好③淡黄2.5Y6/2④口縁破片		51-84・92-96は、口縁部や	
50	深鉢	J-K-6-8G		①A②良好③淡黄2.5Y7/3④割破片		胴部に横位の連続した渦巻文	
51	深鉢	J-K-7-8G		①A②良好③淡黄2.5Y7/3④口縁破片		を施す連弧文土器である。口	
52	深鉢	K-L-5G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR6/3④割破片		唇下に横位区画を施すもの	
53	深鉢	J-K-7-8G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR7/3④割破片		(71-74・84・92-96)が主体	
54	深鉢	J-K-7-8G		①A②良好③褐色10YR5/1④割破片		的であるが、持たないもの(49	
55	深鉢	K-L-5 G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR7/2④割破片	L R	-62)もある。また、胴縁部	連弧文土器
56	深鉢	K-L-5 G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR7/2④割破片		の横位区画も多見されるが、	
57	深鉢	K-6 G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR6/3④割破片		括弧の深いケース(74-77)	
58	深鉢	K-6 G		①A②良好③淡黄2.5Y8/3④割破片		では認められないものもあ	
59	深鉢	K-6 G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR6/3④口縁破片		る。	
60	深鉢	J-K-7-8G	口(35)	①A②良好③鈍い黄褐色10YR3/2④口縁破片		地文は、早期LR縄文が主体	
61	深鉢	J-K-7-8G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR7/3④割破片		的で、他に赤褐色(64-66・	
62	深鉢	K-L-5 G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR7/3④割破片		71-78)や無文(83・84)もあ	
63	深鉢	K-6 G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR7/3④割破片		る。器形は、口縁部が外縁	連弧文土器
64	深鉢	K-L-5 G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR7/3④割破片		するキャリパー形を含有し、	連弧文土器
65	深鉢	M-2 G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR7/3④割破片		波状口縁(49-62・74-77)と	連弧文土器
66	深鉢	M-2 G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR7/3④割破片		平口縁(79-84・92-96)の	
67	深鉢	M-N-4-9G		①A②良好③鈍い赤褐色5YR5/4④口縁破片	R L	両者がある。	連弧文土器
68	深鉢	M-1 G		①A②良好③鈍い黄褐色5YR6/4④割破片	R L	胎土は、Aタイプが主体を占	連弧文土器
69	深鉢	2墳丘		①A②良好③黄褐色5YR6/6④割破片	R L	めるが、結晶片岩を含有しC	連弧文土器
70	深鉢	10住理土		①A②良好③鈍い赤褐色5YR5/4④割破片	R L	タイプ(71)も稀かに認められ	連弧文土器
71	深鉢	M-1 G		①C②良好③鈍い黄褐色5YR6/4④口縁破片		る。	連弧文土器
72	深鉢	10住理土		①A②良好③明赤褐色10YR6/6④割破片		時的には、加曾利E2式新	連弧文土器
73	深鉢	2墳前庭		①A②良好③鈍い黄褐色5YR6/4④割破片		段階から同E3式中段階に平	連弧文土器
74-76	深鉢	J-K-7-8G	口(23)	①B②良好③鈍い黄褐色5YR6/4④口縁～底1/4高(27.5) 底(6.8)		行すると想定される。	
77	深鉢	J-K-7-8G		①B②良好③鈍い黄褐色5YR6/3④口縁破片		高、49-62、65・66、72-73、	連弧文土器
78	深鉢	K-6 G		①B②良好③淡黄2.5Y7/3④口縁破片		74-77、79-82、83・84、92	
79	深鉢	J-K-7-8G	口(20)	①A②良好③淡黄2.5Y7/3④口縁破片		-96、は各々同一個体である。	連弧文土器
80	深鉢	J-K-7-8G		①A②良好③淡黄褐色10YR8/3④口縁破片			
81	深鉢	J-K-7-8G		①A②良好③淡黄2.5Y7/2④口縁破片			
82	深鉢	J-K-7-8G		①A②良好③淡黄2.5Y7/2④割破片			
83	深鉢	7井戸		①A②良好③淡黄2.5Y7/2④割破片			
84	深鉢	J-K-7-8G	口(24)	①A②良好③鈍い黄褐色10YR③口縁破片			連弧文土器
85	深鉢	M-N-4-5G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR③割破片			
86	深鉢	3住籠内・口(16)		①A②良好③鈍い黄褐色10YR③口縁破片			
87	深鉢	M-N-4-5G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR③割破片			
88	深鉢	M-N-4-5G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR③割破片			
89	深鉢	M-N-4-5G		①A②良好③鈍い黄褐色10YR③口縁破片			
90	深鉢	M-N-4-5G		①A②良好③鈍い黄褐色7.5YR7/4④割破片			
91	深鉢	表採		①A②良好③黄褐色5YR6/6④割破片			
92-94	深鉢	J-9 G	口(21.4) 高(23.5)	①A②良好③明褐色7.5YR5/8④口縁～底1/2底(7.2)			
95	深鉢	M-2 G		①A②良好③明褐色7.5YR5/8④割破片	R L		連弧文土器
96	深鉢	9住理土		①A②良好③鈍い黄褐色5YR6/4④口縁破片			
97	深鉢	P-1 G		①A②良好③淡黄褐色10YR7/4④割破片	R L		
98	深鉢	M-0-1 G		①A②良好③淡黄褐色10YR7/4④口縁破片	R L	小破片のために文様構成が不明なもの。円形竹管や丸棒状工具により、刺突文を施す。	加曾利E3式
99	深鉢	K-L-5-6G		①A②良好③淡黄褐色10YR7/4④割破片			加曾利E3式
100-101	深鉢	J-L-5-8G		①A②良好③淡黄褐色10YR7/4④割破片		胴部に横S字状の渦巻文を施す大型の深鉢土器で、赤褐色文土器とする。同一個体。	曾利式系

## 胎土の凡例

- A: 多量の灰色粗・細砂(安山岩)と少量の輝石や透明石英の粗・細砂を含む。  
 B: 多量の灰色砂礫(安山岩)と少量の輝石や透明石英の粗砂を含む。  
 C: 多量の結晶片岩・安山岩・白色石英の粗砂・礫や、少量の輝石の粗・細砂を含む。

## 14号住居出土石器(第14図、P.L.25・26)

番号	器種	出土状態	残存状況	石材	計測値(cm・g)				特徴
					全長	幅	厚さ	重量	
14	打製石斧	床面直上	完形	変質玄武岩	11.2	5.1	1.8	99	14の打製石斧は、大形削片を用いて細縁部に垂直打撃技法を主体とする加工を施す。刃部の表面には、縦方向の弱い磨耗痕が認められる。16の四石は片面に磨り面を持つ。18~24の石器は、22~24が縁辺に強い加工痕を、18~21が使用痕を持つものである。24は、石織の未製品の可能性もある。
15	凹み石	+3cm	完形	粗粒輝石安山岩	14.7	9.3	4.9	635	
16	凹み石	+4cm	一部欠損	粗粒輝石安山岩	11.0	11.9	6.3	907	
17	凹み石	埋没土中	完形	粗粒輝石安山岩	11.0	9.3	6.8	906	
18	削器	+4cm	完形	黒色頁岩	4.0	5.8	0.9	30	
19	削器	+5cm	完形	黒色頁岩	7.9	4.1	0.8	38	
20	削器	埋没土中	完形	黒色頁岩	5.9	3.1	1.0	10	
21	削器	埋没土中	完形	黒色頁岩	5.4	3.1	1.5	16	
22	削器	埋没土中	完形	黒色頁岩	5.9	7.2	2.2	101	
23	削器	埋没土中	完形	黒色頁岩	3.6	4.8	0.7	14	
24	削器	埋没土中	完形	黒色安山岩	3.2	3.3	0.7	5	

## 遺構外出土の縄文時代石器(第24・25図、P.L.26~28)

番号	器種	出土状態	残存状況	石材	計測値(cm・g)				特徴
					全長	幅	厚さ	重量	
1	石織	表採	完形	チャート	4.9	3.4	0.8	1.3	凹基無茎錐。丁寧な交互調整。
2	打製石斧	M-10G	基部欠損	粗粒輝石安山岩	8.3	7.9	2.2	140	短筒形(3~6・8~10)を主体とし、分銅形(2)、楕形(7)が若干見られる。技法的には、垂直打撃技法によるもの(3~6)と、水平回転技法と併用するもの(2・7~10)があるが、前者の技法が卓越している。刃部には、縦方向の磨耗痕を持つものが多い。素材的には、片面に礫表皮を残す例(3~5・7・10)が約半数に認められる。10は石杖状を呈すが、刃部加工の状態から大形の打製石斧と考えられる。
3	打製石斧	3住壺内	完形	黒色頁岩	11.5	5.3	2.0	122	
4	打製石斧	M-O-2G	刃部欠損	粗粒輝石安山岩	(5.3)	3.7	1.1	39	
5	打製石斧	M-N-4G	完形	黒色頁岩	11.8	4.1	1.5	67	
6	打製石斧	O-6G	完形	粗粒輝石安山岩	10.9	5.1	1.7	72	
7	打製石斧	3号墳	完形	黒色頁岩	9.8	6.3	2.7	154	
8	打製石斧	K-12G	完形	粗粒輝石安山岩	13.0	5.0	1.9	148	
9	打製石斧	2墳前庭	完形	黒色頁岩	9.8	4.7	2.2	107	
10	打製石斧	H-12G	完形	変質安山岩	21.3	11.4	4.7	1459	
11	石織	表採	完形	黒色頁岩	7.6	4.3	0.7	34	
12	削器類	2墳石室	完形	黒色頁岩	5.4	13.6	1.9	248	採・削器類を一括した。刃部角度が60度前後の12・13・16は、種別的な機能・用途が想定される。刃部に押圧磨痕を施す18は、石籠的な形態を持つが、狭い部分の作出が不明瞭である。18を除いて、片面に礫表皮を残す点特徴的である。
13	削器類	M-5G	完形	黒色頁岩	11.3	11.3	2.6	205	
14	削器類	M-O-2G	完形	黒色頁岩	6.5	8.1	2.3	113	
15	削器類	N-3G	完形	黒色頁岩	10.3	8.6	2.3	238	
16	削器類	N-10G	完形	黒色頁岩	5.1	11.3	2.2	156	
17	削器類	D-19G	完形	黒色頁岩	15.3	8.6	2.7	328	
18	削器類	O-19G	完形	黒色頁岩	4.9	7.8	1.5	36	
19	削片	M-O-2G	完形	黒色頁岩	9.5	8.2	3.6	271	
20	石核	H-12G	完形	変質安山岩	20.3	14.0	5.4	1850	

## 縄文時代・古墳時代の遺物

## 1号住居(第27図、P.L30)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①粘土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 ミニチュア	①柱穴3形	残 胴部破片 底 (2.5) 高 (2.8)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄2.5Y6/4	深みのある形状。内外面ともスビナテ。	炭素吸着。
2	土師器 鉢	①南西部 ②床直	残 ほぼ完成 口 6.1 底 2.7 高 3.2	①細砂、黒色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR7/4	外面は粗雑なナテ調整。粘土紐の接合痕を残す。内面には粗雑なミガキがみられる。	内外面の一部に炭素吸着。
3	土師器 鉢	①北東部 ②+5	残 ほぼ完成 口 8.8 底 4.4 高 4.3	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③明赤橙10YR7/6	口縁部は内彎きみに立ち上がる。外面はヨコナテ、ナテ。下位はヘラケズリ。	外面、炭素吸着。
4	土師器 鉢	①北部 ②床直	残 1/2 口 (8.8) 底 4.8 高 6.7	①細砂 ②酸化 ③橙7.5YR6/6	口縁部の先端は弱く内彎する。平底。口縁部上位はヨコナテ。外面はナテの上に縦方向のヘラナテ。底部周辺にヘラケズリ。内面は横方向のヘラナテ。	外面、炭素吸着。
5	土師器 杯	①甕焼部	残 1/3 口 (14.0) 底 (2.8) 高 5.8	①粗砂少量 ②酸化 ③赤10R4/6	口縁部は屈曲して直立きみに立ち上がる。底部は狭小な平底。口縁部はヨコナテ。以下外面はヘラケズリと一部ヘラミガキ。内面には棒状工具によるミガキ。	
6	土師器 杯	①甕焼部、 甕左袖部	残 口縁部破片 口 (14.0) 高 (5.7)	①粗砂少量 ②酸化 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナテ。底部はナテ。下平にヘラケズリ。内面はナテに棒状工具によるミガキを重ねる。	火熱を受け、内面の剥離顯著。
7	土師器 杯	①甕焼部、 甕左袖部	残 1/3 口 (12.9) 高 7.6	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③赤褐5YR4/6	口縁部は内側に稜を有した後、短く外傾して立ち上がる。口縁部はヨコナテ。底部外面は中位にミガキ、下位にヘラケズリを施す。上位の一部にハケメを施す。内面はナテ。	器面に剥離が著しい。火熱のためか。
8	土師器 杯	①甕左袖部	残 1/2 口 (13.0) 高 6.9	①粗砂少量、石英 ②酸化 ③橙7.5YR6/6	口縁部は内側に弱い稜を有した後、外傾弱く折れ上方に立ち上がる。口縁部はヨコナテ。底部外面はヘラナテ。内面はナテ。	火熱を受けている。
9	土師器 杯	①柱穴3形 ②床直、埋没土	残 ほぼ完成 口 13.9 高 6.5	①粗砂、石英、軽石 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は外面に弱い稜を有した後、上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナテ。底部外面は弱いタッチのヘラケズリ。	一部に炭素吸着。
10	土師器 杯	①東部、甕 ②床直、埋没土	残 口縁部破片 口 (15.7) 高 (4.5)	①粗砂少量 ②酸化 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は外傾弱く立ち上がる。口縁部はヨコナテ。底部外面にナテに近いヘラケズリ。	
11	土師器 杯	①南東部 ②床直	残 口縁部破片 口 (16.0) 高 (4.4)	①細砂 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は外傾弱く立ち上がる。口縁部はヨコナテ。底部以外は弱いタッチのヘラケズリ。上位にナテの面を残す。	
12	土師器 高杯	①東部 ②床直	残 脚部 口 11.1 高 (7.0)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR6/4	裾部は外反強く反り返る。外面は縦方向のナテ。裾部にヨコナテ。内面は上位にナテ、中位に指頭によるオサエ、ナテ。裾部にヨコナテ。	襷の下から出土。
13	土師器 高杯	①東部 ②床直	残 杯部2/3・ 脚部 口 13.6 脚 9.9 高 11.6	①細砂 ②酸化 ③橙5YR6/6	杯部はみこみが浅く、口縁部は大きく外反する。脚部はラッパ状、裾部は屈曲、外反する。杯部は底部外面にヘラケズリ。脚部外面は丁寧なナテ調整を施す。	
14	土師器 甕	①南東部 ②床直、埋没土	残 ほぼ完成 口 16.7 底 7.0 高 22.6	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙5YR6/4	胴部外面はヘラナテの上にヘラミガキを重ねている。内面はヘラナテが施される。底部から胴部最下位は器面に剥離している。	外面の一部に炭素吸着。
15	土師器 甕	①東部、甕 口部、甕右袖部 ②床直、+4	残 口〜胴部 口 (14.6) 高 (18.8)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR7/4	胴部外面は上半にハケメを施すが、中位はヘラナテの上に粗雑なヘラミガキを重ねる。	破砕後、火熱を受け一部変色している。

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
16	土師器 甕	①中央部、南部、 ②床直、埋没	残 口→胴部 1/3 口 (19.9) 高 (20.2)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい赤褐色5YR5/4	胴部に締まりがなく、頤の可能性も考えられる。 胴部外面は丁寧なヘラナダの上に縦方向のヘラミガキを施す。内面はヘラナダ。	内面は炭素吸着の 為、黒色となる。 火熱を受けている。
17	土師器 甕	①南東部、甕口部、甕口部、甕口部、 埋没	残 ほぼ完成形 口 15.3 底 5.8 高 26.3	①粗砂、軽石 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR6/4	胴部外面は上半にハケメ。下半はヘラナダ後、一部に横方向のヘラズリを重ねる。内面はヘラナダと考えられる。	内面は網羅顯著。 外面、炭素吸着。
18	土師器 甕	①貯蔵穴周辺 ②床直、埋没	残 ほぼ完成形 口 22.1 底 9.9 高 30.2	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③明赤褐色5YR5/6	形状は重み、横断面形は楕円形である。胴部外面は唇面の大半に縦方向のハケメを施す。内面は上半にハケメ、下半にヘラナダがみられる。	下端は欠損著しい。 使用による為か、 外面の一部に炭素 吸着。

## 2号住居 (第30・31図, P.L30)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	①甕前 ②+5、埋没	残 ほぼ完成形 口 12.4 高 6.3	①粗砂、石英、チャート、 軽石②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナダ。底部外面はヘラナダ。内面はナダ。	火熱を受け、内外 面とも荒れている。
2	土師器 高杯	①床下土坑	残 1/2 口 (15.0) 脚 10.7 高 11.9	①粗砂少量 ②酸化 ③橙5YR6/6	杯口縁部は外面に稜を有し、大きく外反して立ち上がる。脚部は柱状で脛部に至り、外反強く反り返る。杯部外面はヨコナダ。脚部外面は丁寧なナダで、脛部にヨコナダを施す。	脛部内面に粘土か すが付着したまま 焼成されている。 器面に炭素吸着。
3	土師器 高杯	①床下土坑	残 ほぼ完成形 口 15.2 脚 11.0 高 12.4	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③明赤褐色2.5YR5/6	杯部は外面に稜をなした後、大きく外反して立ち上がる。脚部はラック状を呈し、脛部は大きく反り返る。杯部はヨコナダ。一部にミガキを重ねる。脚部外面はナダ調整。	内外面に炭素吸着。 内外面に炭素吸着。
4	土師器 甕	①貯蔵穴周辺 ②床直	残 口縁部 1/3欠損 口 14.6 高 21.8	①粗砂少量、軽石、 チャート、石英 ②酸化 ③にぶい黄褐色10YR6/4	底部は平底を意図していない。胴部外面はハケメを消して、斜め横方向に強いクッチのヘラナダ。その後、底部周辺のみヘラズリ。内面はヘラナダ。一部にヘラズリ、ハケメ。	炭素吸着。
5	土師器 甕	①貯蔵穴、床 下土坑 ②埋没	残 ほぼ完成形 口17.1 底6.7 高 15.5	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR6/4	胴部外面は上位にハケメを残すが、中位から下位はヘラナダ、ヘラズリを施す。内面は一部にハケメ、他はヘラナダ。	内外面に僅け付着。
6	土師器 甕	①南部、東部、 甕口部、埋没	残 ほぼ完成形 口 17.0 底 7.3 高 26.6	①粗砂、石英、チャート ②酸化 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は緩やかにくびれ、上方に長く及びる。脛部の張り弱く、底部は大径である。胴部外面はヘラナダを施す。中位から下位は砂粒の動く部分もあり、強いクッチのヘラナダが施されている。内面はヘラナダ。	器面にローム付着。 火熱を受け変色。 炭素吸着。内面は 下部分が網羅。
7	土師器 甕	①南西部 ②床直、埋没	残 口→底部 1/2 口 13.5 高 (15.6)	①粗砂 ②酸化 ③橙2.5YR6/6	胴部外面はハケメの上にヘラズリ、ヘラナダを施し、部分的にヘラミガキを重ねている。内面は縦方向のヘラナダ。	破砕後、火熱を受け 変色。
8	土師器 甕	①甕前 ②床直、+4、 埋没	残 胴→底部 口 15.3 底 4.8 高 15.9	①細砂、白色軽石粒 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR6/4	胴部外面は最下位を除きヘラナダ。内面もヘラナダ。上位のそれは強いクッチで器面に稜をなす。	上部欠損後、二次 利用している。内 外面とも器面網羅。 炭素吸着。
9	土師器 甕	①貯蔵穴周辺 ②床直、埋没	残 胴→底部 口 22.1 高 (22.1)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にぶい黄褐色10YR7/4	胴部外面は下位の一部にヘラズリ。他はヘラナダ。内面もヘラナダ。	火熱を受けて脆弱 になっている。
10	土師器 甕	①床下土坑	残 胴→底部 1/2 底 5.3 高 (31.6)	①粗砂少量 ②酸化 ③明黄褐色10YR7/6	胴部は長胴傾向にある。外面は縦方向にヘラズリを施す。内面は横方向のヘラナダ。	炭素吸着。
11	土師器 甕	②埋没	残 1/3 口16.2 底7.6 高 28.0	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄褐色10YR5/4	器形は重みが著しく不安定である。内外面とも調整は観察できない。	火熱を受けて脆弱に なっている。甕内 出土か。

## 古墳時代の遺物

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考			
							12	土師器 飯	①南西隅 ②床直
13	土師器 飯	①南壁際、床 下土坑、6住 ②床直、+9	残 はは完形 口 16.3 高 9.7	①粗砂少量、石英 ②酸化 ③明赤銅2.5YR5/6	底部は丸底で中央に直径2.0cmの孔が穿たれている。外面は先端ヨコナデ。以下はハケメ、ナデ後、強いタッチの斜め横方向にヘラナデを施す。内面はハケメの上に縦方向のヘラナデを粗雑に施すため、ハケメを多く残す。	内面に付着物の痕跡。			
14	須恵器 甕	②埋没土	残 割部破片	①白色灰物粒②還元、 鉄線③灰7.5Y5/1	外面、叩目。内面、当目にナデを重ねる。				
No	種別 器種	出土状況 ① 平面 ② 垂直	残存状況	材質	計 画 値			特 徴	
					全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		重量 (g)
15	石製品 砥石	①南壁際 ②床直	一部欠損	埋設輝石 安山岩	(10.8)	6.6	4.4	(335)	図下位は旧事欠損と考えられる。表裏両側の4面が使用面となっている。各面とも平滑で刃縁等は認められない。表面の断面はやや凹状を呈する。

## 3号住居 (第35・36図、P.L31・32)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
2	土師器 杯	②埋没土	残 1/2 口 12.0 底 5.3 高 5.4	①細砂、軽石、黒色灰物粒 ②酸化 ③明赤銅2.5YR5/6	口縁部は上位で内側に屈曲して立ち上がる。底部は平底。口縁部はヨコナデ。割部は上位にナデ、中位にミガキ状のヘラナデ、下位にヘラケズリがみられる。内面はナデ。	
3	土師器 杯	①東壁際、埋没 土	残 完形 口 14.5 高 5.4	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は底部から弱い稜を経て、彎曲みに上方に立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は弱いタッチのヘラケズリ。	
4	土師器 杯	①壘	残 口一割部 1/4 口 (13.4) 高 (5.1)	①粗砂少量 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はナデ、下半はヘラケズリ。内面はナデに棒状工具によるミガキを放射状に重ねる。	
5	土師器 杯	②埋没土	残 1/3 口 (13.1) 高 (5.6)	①粗砂少量、チャート ②酸化 ③明赤銅2.5YR5/8	口縁部は緩やかに内彎、上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はミガキ成形時のナデ、中位にヘラナデ、下位にヘラケズリがみられる。	
6	土師器 杯	②埋没土	残 1/2 口 (12.9) 高 6.2	①粗砂、長石、石英 ②酸化 ③明赤銅5YR5/6	口縁部は先短がつままれたように外反する。口縁部はヨコナデ。底部外面は弱いタッチのヘラケズリ。内面はヨコナデ、ナデ後、棒状工具によるミガキを重ねる。	炭素吸着。
7	土師器 杯	②埋没土	残 1/4 口 (14.0) 高 6.0	①細砂、粗砂大の石英 ②酸化 ③にぶい橙2.5YR6/4	口縁部は内側に稜をなした後、短く、弱く外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上半がナデ、下半が弱いヘラケズリ。内面はナデの上に棒状工具によるミガキ。	火熱を受け、内面、割縁顕著。
8	土師器 杯	②埋没土	残 1/2 口 (14.2) 高 (5.5)	①粗砂少量、石英 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は内側に稜を有した後屈曲、短く外反する。口縁部はヨコナデ。底部外面は下位にヘラケズリ、これより上位はヘラミガキ。内面はナデ後、棒状工具によるミガキを施す。	外面の一部に炭素吸着。
9	土師器 杯	②埋没土	残 1/4 口 (12.0) 高 (5.0)	①粗砂少量、石英、黒色灰物粒②酸化 ③明赤銅2.5YR5/6	口縁部は緩やかに彎曲して上方に向かって立ち上がる。口縁部ヨコナデ。底部外面ヘラナデ。内面はナデ後、棒状工具による放射状ミガキ。	
10	土師器 杯	②埋没土	残 1/4 口 (13.6) 高 (4.6)	①粗砂、チャート ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は内側に稜をなした後、外方につままれるように延びる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面はナデ後、ミガキを重ねる。	

No	種別 器種	出土状態 ①平面 ②垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・形状の特徴	備考
11	土師器 杯	②埋没土	残 口縁部 1/3 口 (14.0) 高 (4.5)	①細砂、赤色粘土粒 ②酸化 ③橙2.5YR6/8	口縁部は底部との間に稜をつつた後、外傾弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。	器面、磨耗顕著。
12	土師器 杯	②埋没土	残 口縁部破片 口 (13.0) 高 (3.0)	①粗砂少量 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は外傾著しく立ち上がる。口縁部内面は棒状工具によるミガキ。底部外面はヘラナデ。口縁部をはじめとした法量は大きくなる可能性がある。	
13	土師器 高杯	②埋没土	残 杯部1/4・ 脚部上位 口 (17.0) 高 (6.5)	①粗砂、軽石 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR7/3	杯部は浅く斜め上方に立ち上がる。杯部外面は先端をヨコナデ後、ヘラケズリ。脚部もヘラケズリ後、基部にナデ調整。	火熱の為か、変色している。
14	土師器 甕	①南東部 ②床直、埋没土	残 胴部1/3 一底部 底 4.8 高 (10.8)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/4	胴部外面はヘラナデ。内面もナデ。	外面は剥離、磨滅著しい。火熱を受けている。
15	土師器 甕	②埋没土	残 1/2 口 (11.6) 底 7.3 高 30.1	①細砂、黒色鉱物粒 ②酸化 ③赤10R5/6	口縁部は短く口径も小さい。胴部外面は上半が丁寧なミガキと考えられる。中位はヘラナデ、あるいはヘラケズリ、下位はヘラケズリを施す。	内外面とも器面の剥離が顕著。
16	土師器 甕	①東部、甕底 焼部 ②床直、埋没土	残 口縁部 1/3～胴部 口 (18.2) 高 (28.5)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR7/3	胴部外面は縦方向のヘラナデ。内面は横方向のヘラナデ。	火熱を受け、器面は磨耗が著しい。
17	土師器 甕	②埋没土	残 口～胴部 口 16.0 高 (13.8)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にぶい橙5YR7/4	胴部外面は上部にハケメを残す。他はヘラケズリ、ヘラナデか。内面はハケメ、ナデ、ケズリが混在する。	外面は火熱を受け、剥離顕著。
18	土師器 甕	①南東部 ②床直	残 1/4 口 (12.9) 底 5.8 高 13.2	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にぶい橙2.5YR6/4	口縁部は短く外反して立ち上がる。胴部外面は最下位を除きヘラナデ。内面は弱いタッチのヘラケズリ。	胴部外面は剥離、磨滅。火熱を受けているか。
19	土師器 甕	①南東隅、貯 蔵穴際 ②床直、埋没土	残 口～胴部 口 17.2 高 (16.5)	①細砂 ②酸化 ③浅黄2.5Y7/3	胴部外面はヘラナデ。一部にヘラケズリ。内面は横方向のヘラナデに一部縦方向のヘラナデが重なる。	炭素吸着。火熱を受けている。
20	土師器 甕	①東壁部、甕 底直、埋没土	残 1/2 口 13.1 高 (15.0)	①粗砂、細砂、白色軽石粒 ②酸化 ③明黄褐10YR6/4	口縁部は短く、外傾弱く立ち上がる。底部は欠損。胴部外面は弱いタッチのユビナデ。内面は横方向のヘラナデ。粘土粒の積み上げが粗雑で、内外面に接合痕を残す。	火熱を受けている。
21	土師器 甕	①甕 ②埋没土	残 口～胴部 1/3 口 (12.0) 高 (12.9)	①細砂、白色鉱物粒 ②酸化 ③橙2.5YR6/6	胴部外面はナデ、ヘラナデ。内面もヘラナデ。	火熱を受けている。
22	土師器 甕	①北部 ②床直、埋没土	残 1/2 口 (14.0) 底 8.0 高 20.1	①粗砂多量 ②酸化 ③明黄褐10YR6/3	口縁部は短く、思出で立ち上がる。器形に比較して底径が大きい。胴部外面はヘラケズリ、ヘラナデ。胴部内面も斜め横方向のヘラナデ、ヘラケズリ。	内外面、炭素吸着。
23	土師器 甕	①甕左袖部	残 口縁部 1/2～胴部 口 16.7 高 (20.1)	①粗砂、軽石 ②酸化 ③にぶい橙5YR7/4	胴部外面は下位にヘラケズリを施す他は数回に分けて斜め縦方向にヘラナデ。内面はヘラナデ。	火熱を受けている。
24	土師器 甕	①甕前 ②床直	残 口～胴部 上位 口 16.2 高 (15.1)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にぶい橙5YR7/4	胴部外面は最上位にハケメを残す他はヘラナデを施す。中位は横方向。内面は上位がヘラナデ、一部にハケメ。中位はヘラケズリ。	
25	土師器 甕	①東壁部、貯 蔵穴	残 口～胴部 上位1/3 口 (17.0) 高 (11.9)	①粗砂多量、軽石、赤色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR6/4	口縁部は弱く外傾して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面は斜め縦方向のヘラナデ。内面は横方向のヘラナデ。粘土粒の接合痕顕著。強く外反して立ち上がり、先端に平坦面をなす。	火熱を受けている。

## 古墳時代の遺物

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
26	土師器 甕	②埋没土	残 口縁部 1/3 口 (24.2) 高 (6.6)	①細砂、白色胎土 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	内外面ともヨコナデ。	
27	土師器 甕	②埋没土	残 口-胴部 上位1/3 口 (20.1) 高 (16.8)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄褐10YR6/4	口縁部はラップ状に大きく反外して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は縦方向にヘラケズリ。内面は横方向のヘラナデ。	火熱を受けている。
28	土師器 甕	②埋没土	残 1/3 口 (28.9) 底 (12.1) 高 28.7	①粗砂、黒色胎土 ②酸化 ③にぶい黄2.5Y6/3	胴部外面は横方向に長い単位のヘラナデ。内面は横方向にヘラナデ、ヘラケズリ。上半にはハケメを残す。	炭素吸着。
29	土師器 甕	②埋没土	残 1/2 口 (24.3) 底 10.1 高 29.2	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄2.5Y6/3	胴部外面は縦方向のハケメの上に、ヘラナデに近いタッチで横方向のヘラケズリを粗雑に重ねる。内面は横方向のハケメに一部ヘラミガキを重ねる。	炭素吸着。
30	土師器 甕	②埋没土	残 口-胴部 口 (21.4) 高 (24.8)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄7.5YR6/4	胴部外面は横方向に粗雑なヘラナデを施す。一部その上にミガキを重ねる。内面には横方向のハケメを充填する。	

## 4号住居(第39図、P.L32・33)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	①貯蔵穴	残 ほぼ完形 口 14.1 底 4.0 高 5.8	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③黄2.5YR6/6	口縁部は横やかに内彎して立ち上がる。底部は狭小な平底。口縁部の先端はヨコナデ。中位にヘラミガキ、下位はヘラナデ。内面はナデに棒状工具によるミガキを重ねる。	器面の一部に炭素吸着。
2	土師器 杯	①東壁際 ②+4	残 ほぼ完形 口 11.5 底 7.0 高 5.8	①粗砂少量 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部の先端は内彎して立ち上がる。底部は広径の平底。周縁部がリング状を呈する。口縁部外面は丁寧なナデ。内面は棒状工具により2方向からのミガキを施す。	器面に炭素吸着。
3	土師器 杯	①貯蔵穴	残 ほぼ完形 口 9.8 底3.6 高5.8	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄7.5YR6/4	口縁部は強く内彎して立ち上がる。底部は平底。口縁部は先端をヨコナデ。以下は棒状工具による丁寧なミガキを施す。内面はナデ。	内面の剥離顕著。器面の一部に炭素吸着。
4	土師器 杯	①貯蔵穴	残 完形 口 12.8 底 5.5 高 6.7	①粗砂、石英、チャート ②酸化 ③にぶい赤褐5YR5/4	口縁部は内彎して立ち上がる。底部は平底。口縁部は先端にヨコナデ。以下中位はナデにミガキを重ねる。下位にはヘラケズリがみられる。	器面に炭素吸着。
5	土師器 杯	②埋没土	残 1/4 口 (12.0) 高 5.4	①細砂、赤色粘土粒 ②酸化 ③明赤褐5YR5/8	口縁部は横やかに内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は中位から下位にヘラケズリ。内面はナデ。	火熱を受け、器面は剥離。
6	土師器 杯	①東部 ②床直	残 完形 口 13.9 高 7.1	①粗砂、チャート、石英 ②酸化 ③黄7.5YR7/6	口縁部はわずかに内彎、上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上半にナデ面を残し、下半は弱いタッチのヘラケズリ。内面はナデに棒状工具によるミガキを放射状に重ねる。	器面に炭素吸着。
7	土師器 杯	①貯蔵穴	残 ほぼ完形 口 13.4 高 5.4	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	口縁部は横やかに内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位にナデの面を残し、以下に弱いタッチのヘラケズリ。内面はナデの上に棒状工具によるミガキを乱雑に重ねる。	器面、やや荒れている。炭素吸着。
8	土師器 杯	①貯蔵穴	残 ほぼ完形 口 12.4 底 3.0 高 5.9	①粗砂、細砂 ②酸化 ③黄5YR6/6	口縁部の先端は内彎がみに立ち上がる。口縁部は先端をヨコナデ、以下ヘラナデ。内面はナデの上に棒状工具によるミガキを施す。	器面の一部に炭素吸着。
9	土師器 杯	①貯蔵穴	残 ほぼ完形 口 12.8 高 5.7	①粗砂 ②酸化 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面の大半はヘラナデ、一部ヘラケズリ。内面は棒状工具によるミガキ。	内面の剥離著しい。内外面の一部に炭素吸着。



No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
10	土師器 杯	①貯蔵穴	残 ほぼ完成 口 13.6 高 4.9	①粗砂少量、石英 ②酸化 ③にぶい赤褐色2.5YR5/4	器高は低い。口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位にナデの面を残し、中位、下位はヘラナデ。若干、砂粒が動く。内面には棒状工具によるミガキを重ねる。下位は放射状の上に横方向のミガキを重ねる。口縁部の先端は内側に稜をなした後、短く立ち上がる。内面がそがれたように失る。底部は狭小な凹成。口縁部先端はヨコナデ、以下はヘラナデに近いヘラミガキ。内面には棒状工具によるミガキを施す。	器面に炭素吸着。ススカ。
11	土師器 杯	①貯蔵穴	残 ほぼ完成 口 10.2 底 2.5 高 5.3	①粗砂、軽石 ②酸化 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部は内側に稜をなした後、短く立ち上がる。内面がそがれたように失る。底部は狭小な凹成。口縁部先端はヨコナデ、以下はヘラナデに近いヘラミガキ。内面には棒状工具によるミガキを施す。	外面に炭素吸着。
12	土師器 杯	①貯蔵穴	残 ほぼ完成 口 13.6 高 5.2	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は内側に稜をなした後、短く内彎ぎみに立ち上がる。底部外面は上位にナデ面を残し、下位にヘラズリを施す。内面はナデ後、棒状工具によるミガキを放射状に施す。	破砕後、炭素吸着。
13	土師器 杯	①貯蔵穴	残 ほぼ完成 口 14.0 高 5.5	①粗砂、石英、長石、 軽石②酸化 ③橙2.5YR6/6	口縁部は内面に稜をなし屈曲後短く外反、先端は尖る。口縁部はヨコナデ。底部は上半がナデ、下半がヘラナデ。内面はナデ。	内外面の一部に炭付着。口縁部の欠損は割事小。内面は割離顕著。
14	土師器 杯	①貯蔵穴	残 ほぼ完成 口 12.8 高 6.6	①粗砂少量 ②酸化 ③橙2.5YR6/6	口縁部は底部からわずかに屈曲、外縁短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はナデの上にヘラズリ、ヘラナデを施す。	器面の一部に炭素吸着。
15	土師器 杯	①甕右袖部 ②+4	残 ほぼ完成 口 13.8 高 5.9	①粗砂少量、チャート ②酸化 ③明赤褐色5YR5/6	口縁部は底部から屈曲後、直立ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位にミガキ、中位にヘラナデ、最下位にヘラズリ。内面にやや粗雑な棒状工具によるミガキを施す。	器面の一部に炭素吸着。
16	土師器 杯	②埋没土	残 口縁部 1/3 口 (13.2) 高 (4.7)	①細砂 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は内側に稜をなし屈曲して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラナデ。	火熱を受け、器面割離。
17	土師器 杯	②埋没土	残 口～底部 破片 口 (13.4) 高 (5.1)	①細砂 ②酸化 ③明赤褐色5YR5/8	口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラズリ。	火熱を受けているか。
18	土師器 壺	①貯蔵穴	残 口縁部先 端欠損 高 (8.5)	①細砂 ②酸化 ③赤褐色2.5YR4/6	広口の口縁部が付いていたか。外面は棒状工具による丁寧なナデ。内面はヘラナデ。	口縁部欠損後も棒状に使用可。下位の器面は割離顕著。
19	土師器 壺	①貯蔵穴	残 胴部下位 ～底部 口 26.0 底 7.2 高 10.5	①粗砂、細砂 ②酸化 ③赤褐色10R6/6	外面はヘラナデ後、部分的にヘラズリを施す。内面はヘラナデ、一部にハケメが残る。	傾斜の容器として二次利用している。器面の一部に炭素吸着。
20	土師器 壺	①甕熱焼部	残 ほぼ完成 口15.3 底5.3 高 28.1	①粗砂、石英、軽石 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR7/4	胴部外面は上位にハケメを残す。中位以下はヘラナデ、ヘラズリを施す。内面はヘラナデ。	器面は火熱を受け、割離顕著。
21	土師器 壺	①貯蔵穴、甕 熱焼部	残 口縁部 1/2欠損 口 (17.2) 底5.2 高27.0	①粗砂 ②酸化 ③にぶい赤褐色5YR5/4	胴部外面は上半に縦方向のハケメを施し、一部に横方向のナデを重ねる。下半は中位にヘラズリ、下位にヘラナデを施す。内面はヘラナデ。下半にハケメがみられる。	内外面とも火熱を受け、割離著しい。
22	土師器 壺	①甕熱焼部	残 ほぼ完成 口 17.2 底 8.3 高 15.4	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR6/4	口縁部は口径が広く、短く直立ぎみに立ち上がる。胴部外面は上半にハケメを施し、一部ナデを重ねる。下半上位にはヘラズリ、下位にはナデとヘラズリ。内面は横方向のヘラナデ。	
23	土師器 壺	①柱穴1期 ②+3、埋没 土	残 ほぼ完成 口 10.8 高 12.3	①細砂 ②酸化 ③にぶい赤褐色5YR5/4	胴部外面は上半にハケメ、下半にヘラナデ。一部ヘラミガキが重なる。内面はヘラナデ。	内面、炭素吸着。
24	土師器 壺	①東室部 ②+9	残 口～胴部 上位1/2 口 (16.4) 高 (11.6)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR6/3	胴部外面は最上位にハケメを残す場合はヘラナデ、一部ヘラズリ。内面もヘラナデ。	外面の一部に炭素吸着。

## 古墳時代の遺物

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・変形の特徴	備考
25	土師器 甗	①甗熱焼部 ②埋没土	残 1/2 口 (23.4) 底 9.0 高 22.6	①細砂、黒色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい黄7.5YR5/4	胴部外面は上位から中位がヘラナデ、下位は最下層にヘラケズリ。内面は丁寧なヘラナデ。	外面の一部に炭素吸着。

## 5号住居 (第42図、P.L33・34)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・変形の特徴	備考
1	土師器 鉢	①南東部、東側 ②床直、+4、埋没土	残 2/3 口 13.8 底 6.3 高 7.0	①粗砂、細砂、軽石多量 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR6/4	口縁部は先端のみ狭い幅で外反する。広径な平底。口縁部は先端をヨコナデ。以下外面は粗雑なナデ、ユビオサエ。接合痕を残す。内面はヘラナデ。	火熱を受けている。
2	土師器 鉢	①南東部 ②床直	残 はほぼ定形 口 10.8 底 5.8 高 6.3	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③橙7.5YR7/6	底部は広径の平底。口縁部先端はヨコナデ。以下はナデ、ヘラナデ。内面もヘラナデ。調整は粗雑で外面に粘土粒の接合痕を残す。	炭素吸着。火熱を受けている。
3	土師器 鉢	①貯蔵穴 ②埋没土	残 1/3 口 (19.0) 高 9.2	①粗砂、細砂 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部はヨコナデ。以下外面はケズリ、ヘラナデ。内面はヘラナデ、一部ヘラミガキ。	外面の一部に炭素吸着。
4	土師器 鉢	①貯蔵穴	残 はほぼ定形 口 12.6 底 2.5 高 7.6	①粗砂少量、チャート、軽石 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR6/4	口縁部は底部から明瞭な変化する方向に立ち上がる。外面は最下層にヘラケズリ。他はナデの上部へヘラミガキを重ねる。内面はヘラナデ。	外面の一部に炭素吸着。
5	土師器 椀	①甗熱焼部	残 はほぼ定形 口 10.9 高 8.2	①粗砂、軽石、赤色粘土粒 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は短く直立ぎみに立ち上がる。底部外面は強い調子のヘラナデに一部ヘラミガキが加えられている。内面はヘラナデ。	火熱を受けている。
6	土師器 杯	①甗石袖部熱 ②床直	残 はほぼ定形 口 13.8 高 6.6	①細砂 ②酸化 ③橙2.5YR6/8	口縁部は底部との間に明瞭な変換点を有せず、外傾弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラナデの上にヘラミガキを重ねる。内面には工具痕が細い沈澱状に残る。	外面に炭素吸着。ススカ。
7	土師器 埴	①北部、北東部、貯蔵穴 ②床直、+5、埋没土	残 胴部一部 欠損 口 9.7 高 16.1	①粗砂、黒色鉱物粒 ②酸化 ③橙2.5YR6/6	口縁部はヨコナデ。胴部外面は棒状工具によるミガキ。内面はヘラナデ。底部はやや平底を意識した丸底である。	胴部内面は測線顕著。外面の一部に炭素吸着。
8	土師器 甕	①北東隅 ②+9	残 底部欠損 口 14.1 高 (18.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部はくの字状に外反して立ち上がる。胴部外面は4割ほどに分けヘラケズリ、ヘラナデ。一部ヘラミガキ状を呈する部分もある。内面は斜め方向のヘラナデ。上半下位はヘラケズリ。	底部欠損は旧事か。外面に炭素吸着。
9	土師器 甕	①北東隅、甗熱焼部。 ②+13、埋没土	残 1/2 口 16.4 底 7.3 高 33.2	①粗砂少量、細砂 ②酸化 ③橙7.5YR6/6	胴部外面は上半がヘラケズリ、下半がヘラナデあるいは一部ヘラミガキ状を呈する。内面は横方向のヘラナデ。	外面下半にスス付着。
10	土師器 甕	①東側貯蔵穴 ②床直、埋没土	残 口~胴部 下位1/2 口 (23.2) 高 (25.2)	①粗砂、細砂、赤色粘土粒 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部は大径で胴部もあまりくびれない。胴部外面は上位から中位がハケメの上にヘラケズリを重ねる。下位は斜め方向に棒状工具によるミガキ。内面は大平がヘラナデ。上位に一部ヘラケズリを、下位にハケメを施す。	外面に炭素吸着。
11	土師器 甕	①北東隅、甗熱焼部 ②床直、埋没土	残 口~胴部 1/2 口 15.0 高 (11.9)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙5YR6/4	胴部外面はハケメの上にヘラナデを重ねる。内面はハケメを施す。	
12	土師器 甕	①東部、北東部、甗熱口部周辺、甗熱焼部 ②床直、埋没土	残 はほぼ定形 口 19.3 底 8.5 高 24.4	①粗砂、チャート、軽石粒 ②酸化 ③橙7.5YR6/6	口縁部は屈曲、外反弱く立ち上がる。胴部の張り強いが大径は上位にある。口縁部はヨコナデ。胴部外面は縦あるいは斜め方向のナデの上に、幅の狭いミガキ状のナデを不規則に重ねる。内面は横方向のナデの上に縦方向のヘラミガキを重ねる。	火熱を受けている。炭素吸着。

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考			
							計測値		
No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況	材質	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
13	土師器 甌	②埋没土	残 口縁部一 部欠損 口 13.6 底 2.3 高 11.5	①粗砂、粗砂、軽石、 黒色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい黄緑10YR7/3	底部に直径1.9cmの小孔を穿つ。口縁部はヨコナデ。外面はヘラケズリの一部ミガキ。内面はヘラナデ、ナデで、あまりミガキが施されていない。				器面に炭素吸着。
14	須恵器 不明	②埋没土	残 破片 底 (10.0) 高 (1.1)	①白色鉱物粒少量 ②還元 ③灰N4/	円板状の壁から長くシャープな尖角が延びている。尖角部分にはヨコナデが施される。				外面に自然附着。
15	石製品 砥石	②埋没土	1/2	粗粒輝石 安山岩	(8.5)	7.7	3.5	(288)	扁平な面で表面は磨着により平滑になっている。裏面には鍛打によると考えられる細かな凹部の集合がみられる。

## 6号住居 (第45・46図、P.L34・35)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考			
							計測値		
No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況	材質	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
1	土師器 鉢	②埋没土	残 2/3 口 (8.2) 底 4.3 高 4.7	①粗砂少量、黒色鉱物 粒 ②酸化 ③にぶい黄緑10YR7/3	口縁部は先端が内彎して立ち上がる。外面は先端がヨコナデ。以下ヘラケズリ、ヘラナデ。内面はナデ後、ミガキを重ねる。				外面に炭素吸着。
2	土師器 杯	①中央部 ②床直、埋没 土	残 ほぼ定形 口 13.4 底 3.7 高 6.5	①粗砂、石英、長石 ②酸化 ③橙5YR7/6	口縁部は彎曲して立ち上がる。底部は狭小な平底。口縁部外面の先端はヨコナデ。中位にヘラナデ、下位にヘラケズリを施す。				内面に半截竹管状の工具による刺突痕あり。
3	土師器 杯	②埋没土	残 1/3 口 (12.9) 底 4.9 高 5.9	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR5/4	口縁部の先端は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部は先端をヨコナデ。以下は中位にナデ、下位にヘラケズリのみみられる。内面には棒状工具による幅広で強い調子のミガキが重なる。				炭素吸着。
4	土師器 杯	①北壁部、壺 ③+9、埋没 土	残 口縁部 1/3欠損 口 11.5 高 5.2	①粗砂、石英、長石 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は内彎きみに丸味を帯びて立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下位にヘラケズリを施す。				やや炭素吸着。
5	土師器 杯	①貯蔵穴 ②埋没土	残 1/2 口 (13.8) 高 6.4	①粗砂少量、軽石 ②酸化③明赤褐2.5YR5/6	器形は歪んでいる。口縁部は緩やかに内彎、上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半にヘラケズリを施す。				内外面の一部に黒色の付着物。
6	土師器 杯	①甕左袖部	残 ほぼ定形 口 14.2 高 5.8	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄7.5YR5/4	底部は狭小な平底。口縁部の先端はヨコナデ。以下は乾燥が進行した時点でのヘラケズリ。ヘラナデ、ヘラミガキに近い。内面は棒状工具によるミガキを施す。				内面を中心に器面に炭素吸着。
7	土師器 杯	①東壁部 ②床直	残 ほぼ定形 口 13.3 高 5.0	①粗砂少量 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は底部との明瞭な転換点はなく、斜め、上方に大きく開かれる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラナデ、一部にヘラケズリ。内面はヨコナデ、ナデ。				器面の一部に黒色の付着物。ススカ。
8	土師器 杯	②埋没土	残 2/3 口 12.0 高 4.3	①粗砂少量 ②酸化 ③赤褐2.5YR4/8	口縁部は底部から内彎に向かって立ち上がる。先端は実る。口縁部はヨコナデ。底部外面は上半にナデ、一部ミガキを重ねる。下半にヘラナデ。内面はナデ。				内外面の一部に黒色の付着物。
9	土師器 杯	②埋没土	残 1/3 口 (14.4) 底 4.3 高5.4	①粗砂、軽石 ②酸化 ③赤褐2.5YR4/6	口縁部は内面に稜をなし屈曲、短く立ち上がる。平底。底部外面は下半にヘラケズリ。内面にヨコナデ。				
10	土師器 杯	①北東部 ②床直、埋没 土	残 1/3 口 (13.2) 底 (5.2) 高 5.3	①粗砂少量、石英 ②酸化 ③赤褐2.5YR4/6	口縁部は内側に稜を有し屈曲、内彎きみに短く立ち上がる。底部は平底を意図しているのか。口縁部はヨコナデ。底部外面は上半にナデ、下半にヘラケズリ、ヘラナデを施す。内面は下束なナデ。				火熱を受けたか。

## 古墳時代の遺物

No.	種別 器種	出土状態 ①平面 ②垂直	残存状況 流量 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
11	土師器 杯	①底部、 ②+5	残 ほぼ定形 口 12.5 高 5.2	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄5YR6/4	口縁部は内側に稜をなした後、外傾して短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上半にナデ面を残し、下位はヘラケズリ。内面はナデに棒状工具による幅の狭いミガキを重ねる。	
12	土師器 杯	①北東部、野 鹿穴・周辺 ②床直、+3、 埋没土	残 口縁部 1/3欠損 口 13.5 高 6.3	①粗砂、軽石 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は先端がつままれたように外反して立ち上がる。底部外面は上半がヘラケズリのようなヘラケズリ。下半がヘラミガキ。	外面の一部に炭素吸着。黒色の付着物もみられる。
13	土師器 杯	①野鹿穴	残 破片 口 (13.4) 高 (6.5)	①粗砂、石英 ②酸化 ③明褐7.5YR5/6	口縁部は内面に稜をなし屈曲、短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下位にヘラケズリ。	破砕後、火熱を受けている。
14	土師器 杯	①西壁部 ②床直	残 1/2 口 (12.8) 高 5.5	①粗砂 ②酸化 ③黄5YR6/6	器内は全体に厚い。口縁部は底部から明瞭な変換点なく立ち上がり、上半が外反する。底部外面はヘラケズリに近い器面調整。内面もナデ。	外面を中心に器面に黒色の付着物。
15	土師器 罎	①野鹿穴周辺 ②+10	残 ほぼ定形 口 13.2 高 8.6	①粗砂少量、石英、チャ ート②酸化 ③にぶい黄5YR6/4	口縁部は短く、外傾弱く斜め上方に向かって立ち上がる。底部外面は弱いタッチのヘラケズリを施す。内面にはヘラケズリ。	外面に炭素吸着。ススカ。
16	土師器 罎	①北西部 ②+7、埋没 土	残 上半1/3 口 (13.1) 高 (9.1)	①粗砂、粗砂大の軽石 少量②酸化 ③黄5YR6/6	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラケズリ。内面はヘラケズリ。	火熱を受けているか。
17	土師器 高杯	②埋没土	残 胴部上半 高 (7.7)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	胴部は下位に変換点を有し、胴部が大きく外反すると考えられる。胴部外面は縦方向に棒状工具によるミガキを施す。内面は横方向のナデ。	
18	土師器 高杯	②埋没土	残 杯部下位 -胴部上半 高 (9.2)	①粗砂少量 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	胴部は胴部に変換点を有し、外反の度合いが強めると考えられる。杯部外面はナデ。ハケム。胴部は縦方向に棒状工具によるミガキを施す。	
19	土師器 罎	①電線燃焼部	残 底部欠損 口 15.9 高 (25.6)	①粗砂、チャート、石 英 ②酸化 ③にぶい黄7.5YR7/4	底部は丸底の可能性があるか。胴部外面は上半が斜め縦方向のヘラケズリ。下半が2方向からのヘラケズリ。内面は下位に横方向のハケム。他は横方向のヘラケズリ。	火熱を受けている。
20	土師器 罎	①北東部 ②床直、埋没 土	残 口縁部 1/3欠損 口 17.2 底 7.0 高 35.0	①粗砂、細砂、石英、 黒色鉱物粒 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	胴部は最大径を中位やや上に有し、大きく張る。胴部外面は上半がハケムの上にナデを施し、部分的に横方向のミガキを重ねる。下半はナデの上にミガキを重ねる。底部近くには弱いタッチのヘラケズリ。内面は横方向のヘラケズリ。	口縁部から胴部の内外面に黒色の付着物。炭化物か。
21	土師器 罎	①北東部 ②+10、埋没 土	残 上半1/2 口 (14.4) 高 (19.5)	①細砂 ②酸化 ③灰黄褐10YR5/2	胴部外面は上位から中位がハケムの上に一部ヘラミガキ、下位はヘラケズリ。内面は縦方向にヘラケズリ。	内面は磨耗著しい。外面にスス付着。
22	土師器 罎	①北東部 ②床直、埋没 土	残 口縁部 2/3欠損 口 (15.5) 底 5.4 高 28.6	①粗砂、軽石 ②酸化 ③にぶい黄褐10YR7/3	底部は不安定な平底。胴部外面は上位が縦方向、中位が横方向、下位が斜め縦方向のヘラケズリを施す。中位～最下位に強いタッチで砂粒が動き、ケズリに近い部分あり。内面は上半がハケム、中位～下位にヘラケズリを施し、一部にハケム。	外面にスス付着。
23	土師器 罎	①中央部 ②床直、埋没 土	残 口～胴部 上半1/2 口 (14.6) 高 (13.0)	①粗砂、細砂、軽石、 黒色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい黄褐10YR7/3	口縁部は外反して立ち上がる。胴部は緩やかに張る。口縁部はヨコナデ。胴部外面はハケムの上にナデ、ミガキ。内面はナデの上にミガキ。	外面にスス付着。
24	土師器 罎	①中央部 ②床直、埋没 土	残 ほぼ定形 口17.0 底6.4 高 27.2	①粗砂、細砂、軽石 ②酸化 ③にぶい黄褐10YR7/4	口縁部は先端が強く外反。胴部外面はハケム後、ヘラケズリ、ヘラミガキを重ねるが、調整は全体に粗粒。内面は下半ヘラケズリ、上半ハケム。	外面、炭素吸着。
25	土師器 瓶	①東部、壺前 野鹿穴 ②床直	残 ほぼ定形 口 22.4 底 8.5 高 21.8	①粗砂、軽石、黒色鉱 物粒 ②酸化 ③にぶい黄褐10YR7/3	口縁部に最大径を有し、胴部は張らない。胴部外面は斜め縦方向のヘラケズリ。上位に横方向のヘラケズリ。内面は丁寧なナデ。一部上位にヘラケズリ、中位にハケムがみられる。	外面、炭素吸着。
26	土師器 瓶	①野鹿穴、F -19グリッド	残 ほぼ定形 口 20.8 底 4.7 高 13.2	①粗砂、細砂、チャ ート ②酸化 ③黄7.5YR6/6	底面中央には1.7cmの小孔を穿つ。外面は底部を除き縦方向のハケム。底部近くには一部ヘラケズリ。内面は一部にヘラケズリの面を残す他は横、斜め縦方向のハケム。	

## 7号住居 (第48・49図、P.L35・36)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①粘土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考		
							計測値	特徴
			全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
1	土師器 杯	①西部、南西 部、柱穴2周辺、 甕 ②床直、+4、 埋没土	残 1/3 口 (12.8) 高 4.8	①粗砂少量、軽石、石 英 ②酸化 ③にぶい赤褐色5YR5/4	口縁部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は口縁部付近までヘラケズリ。乾燥が進行し、ミガキ状を呈する部分もある。内面はナデ。	火熱を受け、一部にスス付着。		
2	土師器 杯	①南東部、甕 ②床直	残 口縁部 1/4欠損 口 12.8 高 5.2	①粗砂少量、石英、軽 石、黒色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい黄褐色10YR6/4	口縁部は内彎ぎみに立ち上がり、先端は尖る。底部はヘラケズリによりやや平底きみ。口縁部はヨコナデ。底部外面は下位にヘラケズリ、他はナデ。底部内面には工具痕あり。	火熱を受けている。		
3	土師器 杯	①南壁際 ②+5	残 ほぼ定形 口 13.6 高 7.6	①粗砂、細砂少量、 黒色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい黄褐色10YR6/4	口縁部は斜め上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部は外面に棒状工具によるミガキを充填する。内面はナデ後、棒状工具によるミガキを放射状に施す。下位には斜め横方向のミガキが重なる。使用痕か。	内外面の一部に炭素吸着。		
4	土師器 杯	①南壁際 ②+3	残 ほぼ定形 口 12.3 底 4.8 高 7.3	①粗砂、白色軽石、雲 母、黒色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい黄褐色10YR7/4	口縁部は短く、胴部は深みを有する。狭小な平底。口縁部はヨコナデ。胴部外面は丁寧なナデ。内面も丁寧なナデ。器内は厚く、重い。	炭素吸着。		
5	土師器 杯	①甕焼部	残 ほぼ定形 口 15.2 高 7.7	①粗砂少量、チャート、 石英、軽石②酸化 ③赤10YR5/8	口縁部は内面に稜を有し、斜め上方に屈曲して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部下半はヘラケズリ。内面はヨコナデ、ナデ。	炭素吸着。火熱を受けている。		
6	土師器 甕	①柱穴1周辺、 柱穴4周辺、 甕 ②床直、+7、 +10、埋没土	残 口～胴部 口 20.4 高 (22.9)	①粗砂、赤色粘土粒 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は中位に稜を有し、上半は大きく外反する。胴部外面は丁寧なヘラナデ。内面も上半にヘラナデを施すが、粘土粒の接合痕を残す。下半はヘラケズリ。	一部に炭素吸着。		
7	土師器 甕	①貯蔵穴	残 ほぼ定形 口 20.4 底 8.5 高 28.5	①粗砂、黒色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい黄褐色2.5Y7/3	胴部の張り弱い。胴部外面は縦方向のヘラナデの上に同方向のヘラミガキを重ねる。内面は横方向のヘラナデ。一部にヘラケズリ。	炭素吸着。		
8	土師器 甕	①甕焼部	残 ほぼ定形 口 16.0 底 7.3 高 29.0	①粗砂、チャート多量 ②酸化 ③黄褐色2.5Y7/3	口縁部は外反く立ち上がる。胴部外面は縦方向のヘラナデ、ヘラケズリを施す。胴部内面は横方向のヘラナデ。	外面にスス付着。		
9	土師器 甕	①甕右輪部 ②埋没土	残 ほぼ定形 口 18.3 底 6.6 高 16.9	①粗砂少量、赤色粘土 粒 ②酸化 ③にぶい黄褐色2.5Y7/4	口縁部外面は下位が肥厚し、受け口状を呈しているように見えるが、内面は屈曲することなく外反する。胴部外面は弱いタッチのヘラケズリ、ヘラナデ。砂粒は動いているがナデ調整の意図が強い。内面はヘラナデ。	内面、剥離顕著。火熱を受けている。		
10	鉄器 鏃	①西壁際 ②床直	ほぼ定形	13.7	2.7	0.3	31	背側は直線をなし、刃鋒に至り強く刃部側に屈曲する。刃部も直線に近い。幅は着胴部から鋒に向かって狭くなる。着胴部は緩やかに屈曲する。全体に錆ぶくれが著しい。
11	鉄器 鏃	①西壁際 ②床直	基部先端 欠損	(12.3)	0.95	0.1	(12)	刃部は平面、柳葉状を呈する。刃部長4.15cm、最大幅0.95cmを測る。表面には錆が認められない。基部の増部は欠損している。残存長8.15cm、幅0.8cm、厚さ0.1cmの板状を呈するが基部から刃部寄り0.7cmの位置に溝を有し、幅を0.4cmに狭める。柄木の一部が残存している。

## 8号住居 (第52・53図、P.L36・37)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①粘土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考

## 古墳時代の遺物

No	種別 種	出土状態 ①平面 ②垂直	残存状況 法量(cm)	①粘土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
2	土師器 杯	①貯蔵穴周辺 ②+13	残 口12.4 高 5.5	①粗砂少量、石英、軽石 ②酸化 ③橙SYR6/6	口縁部は緩やかに内彎して立ち上がる。底部は下位は平底を意図している。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位を帯いて弱いテッチのヘラケズリ。内面はヘラナデ。	
3	土師器 杯	②埋没土	残 1/2 口(14.6) 高 6.5	①粗砂、細砂 ②酸化 ③赤褐2.5YR4/4	口縁部は内外面に弱い稜を有する。口縁部はヨコナデ。底部外面は最下位にヘラナデ。それ以外は棒状工具によるミガキを施す。内面は横方向のナデ。	器面、炭素吸着。
4	土師器 杯	①柱穴1期 ②床直、埋没土	残 口縁部 1/2欠損 口 13.7 底4.2 高7.0	①粗砂、細砂、黒色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい橙SYR6/4	口縁部は短く、斜め上方に向かって立ち上がる。底部は狭小な平底。口縁部はヨコナデ。以下外面はヘラナデ。	器面の一部に炭素吸着。
5	土師器 杯	①龍左輪部 ②埋没土	残 口12.3 高 6.9	①粗砂少量、石英、軽石 ②酸化 ③にぶい橙SYR6/4	口縁部は内面に稜を有し屈曲、短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上半がミガキに近いヘラナデ。下半が弱いヘラケズリ。内面は横方向のナデ。	火熱を受け、器面割減。
6	土師器 杯	①貯蔵穴周辺 ②+13、埋没土	残 3/4 口 13.0 高 4.4	①粗砂少量、白色軽石 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部はヨコナデ。底部下半は弱いテッチのヘラケズリに一部ヘラミガキが重なる。	内面、器面割減顯著。外面の一部に炭素吸着。
7	土師器 杯	①南西部 ②+3	残 口13.0 高 4.1	①粗砂少量 ②酸化 ③橙SYR6/6	口縁部は内側に稜をなし屈曲、内彎ぎみに短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラナデ。内面はナデ後、棒状工具によるミガキを放射状に施す。	外面の一部に炭素吸着。
8	土師器 杯	①貯蔵穴周辺 ②+14	残 口13.2 高 5.8	①粗砂少量、石英、雲母②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は緩やかに内彎して立ち上がる。内外面とも器面の磨耗、剥離が著しく、調整の観察不可。底部外面は丁寧なナデと思われる。	
9	土師器 杯	②埋没土	残 口一底部 破片 口(15.8) 高(4.6)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR6/4	口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はナデ。下半にヘラケズリを施す。	口徑は小さくなる可能性がある。外面、炭素吸着。
10	土師器 罍	①龍右輪部 ②埋没土	残 口一胴部 口(15.5) 高(20.4)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR7/4	胴部外面は縦方向にヘラナデ。一部はヘラケズリ状、一部はヘラミガキ状。内面はヘラナデ。	破損後、火熱を受けたか。
11	土師器 罍	①龍左輪部 ②埋没土	残 口14.8 底4.7 高 27.5	①粗砂、軽石 ②酸化 ③橙SYR6/6	胴部外面は丁寧にヘラナデを施す。下位と底部近くの最下位にヘラケズリを施す。内面は横方向のヘラナデ。	火熱を受けている。
12	土師器 罍	①貯蔵穴	残 口縁部 1/2欠損 口(15.7) 底4.7 高29.9	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にぶい橙SYR6/4	底部は狭小で不安定。胴部外面は肩部にハケメを残す他は、縦方向のヘラナデを弱い単位で施している。内面は横方向のヘラナデ。	内面は剥離が著しい。外面にスス付着。
13	土師器 罍	①西部 ②床直、埋没土	残 口21.3 底(9.3) 高(30.2)	①細砂、粗砂 ②酸化 ③明黄褐10YR2/6	口縁部先端は平坦面をなす。胴部外面は縦方向に5・6回に分けてヘラナデを施す。内面もヘラナデを施し、上半には粘土層の接合痕を顕著に残す。下層は全て欠損している。	外面の一部に炭素吸着。
14	土師器 罍	①龍焼部	残 口16.2 底 4.5 高 28.5	①粗砂、黒色鉱物粒 ②酸化 ③淡黄2.5YR/3	胴部外面は上半がヘラナデ、一部にミガキを重ねる。下半はナデと弱いテッチのヘラケズリが混在する。内面は横方向のヘラナデ。	器面、やや割減。火熱を受け、外面にスス付着。
15	土師器 罍	①南部、南壁際 ②+4、+10、 埋没土	残 1/3 口(22.2) 底 8.3 高(45.7)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にぶい黄褐10YR7/4	胴部外面はハケメの上にヘラナデ、ヘラミガキ。下位はハケメを残す。内面は上位がヘラナデ、下位がハケメ。2片から図上復元。	火熱を受けている。
16	須恵器 罍	②埋没土	残 胴部破片	①白色・黒色鉱物粒少量②還元③灰N4/	外面、不鮮明な明目の上にカキ目が重なる。内面、同心円状の当目を残す。	外面に自然輪付着。
17	須恵器 罍	②埋没土	残 胴部破片	①白色鉱物粒少量②還元③灰N4/	外面、不鮮明な明目の上にカキ目が重なる。内面、上位に同心円状の当目、下位にナデ。	外面に自然輪付着。
18	須恵器 不明	②埋没土	残 破片	①白色鉱物粒少量②還元③暗灰N3/	器面は彎曲著しい。断面三角形の突部による区画内に波状文が2段ずつ施される。	外面に自然輪付着。

9号住居 (第55・56図、P.L37)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	① 壺周辺 ② +5、埋没 土	残 ほぼ定形 口 12.5 高 4.1	① 粗砂、黒色鉱物粒 ② 酸化 ③ ①にぶい黄澄10YR7/4	口縁部は底部から彎曲して上方に立ち上がる。 口縁部はヨコナデ。胴部は下半をヘラズリ。 中位はヘラナデ。底部は狭小な平底。	内外面、炭素吸着。 内外面とも炭素吸着。
2	土師器 杯	① 南部 ② +3、埋没 土	残 ほぼ定形 口 13.4 高 4.3	① 粗砂多量、礫大の軽石、石英、灰石、黒色鉱物粒 ② 酸化 ③ ①にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は外面に稜を有し、底部から内折ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラズリ、ヘラナデ後、ミガキを加えていたと考えられる。	口縁部の先端は磨滅している。外面の磨耗、磨滅も顕著である。内外面とも炭素吸着。
3	土師器 杯	① 壺頸際、貯蔵穴、柱穴1 ② 味直、埋没 土	残 口縁部一部欠損 口 13.1 高 4.2	① 粗砂、チャート、軽石、黒色鉱物粒 ② 酸化 ③ ①にぶい黄澄10YR6/4	口縁部は底部から内側に屈曲、斜め上方に短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラズリを施す。内面は丁寧なナデ。	内外面とも炭素吸着。 内外面とも炭素吸着。
4	土師器 壺	① 東頸部、壺口部、壺口部 ② 味直、+5	残 3/4 口 13.6 底 6.4 高 18.2	① 粗砂、軽石、黒色鉱物粒 ② 酸化 ③ ①にぶい黄澄10YR7/3	口縁部は横やかに外反して立ち上がる。胴部外面は縦あるいは斜め横方向のヘラズリ、一部にヘラナデ。内面は横方向のヘラナデ。	火熱を受けている。
5	土師器 壺	① 東部、貯蔵穴周辺、壺口部、柱穴4 ② 味直、埋没 土	残 3/4 口 13.2 高 14.4	① 粗砂、軽石 ② 酸化 ③ ①にぶい橙10YR7/3	口縁部は短く、外傾弱く立ち上がる。胴部外面はヘラズリ。内面はナデ。	火熱を受けている。 外面の一部に炭素吸着。
6	土師器 壺	① 壺周辺 ② +5、埋没 土	残 口へ胴部下位 口 22.8 高 (28.8)	① 粗砂多量、石英、チャート、軽石 ② 酸化 ③ ①にぶい黄澄10YR7/4	口縁部は強く外反、ここに最大径を有する。胴部は中位でやや膨らむ程度。口縁部はヨコナデ。胴部外面は縦方向のヘラズリ。内面はナメ方向のヘラナデを繰り返す。	火熱を受けている。
7	須恵器 大甕	② 埋没土	残 胴部破片	① 白色鉱物粒少量②還元③暗灰N3/	外面、叩目。内面、同心円文状の当目をナデ消している。	9号住居7～10は同一個体か。
8	須恵器 大甕	② 埋没土	残 胴部破片	① 白色鉱物粒少量②還元③暗灰N3/	外面、叩目の上に弱いナデが重なる。内面はナデが施される。	
9	須恵器 大甕	② 埋没土	残 胴部破片	① 白色鉱物粒少量②還元③暗灰N3/	外面、叩目。内面、当目をナデ消している。	
10	須恵器 大甕	② 埋没土	残 胴部破片	① 白色鉱物粒少量②還元③暗灰N3/	外面、叩目の上に弱いナデ。内面、ナデ。	

10号住居 (第59～64図、P.L37～41)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	① 壺直 ② 味直	残 定形 口 14.0 高 6.4	① 粗砂少量、軽石 ② 酸化 ③ 橙5YR6/6	口縁部は内面に稜を有し屈曲、内彎ぎみに斜め上方に立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はナデ、中位以下は弱いタッチのヘラズリ。内面はナデ、ヘラナデ。	器面の一部に炭素吸着。
2	土師器 杯	① 壺左輪部際 ② 味直	残 ほぼ定形 口 12.3 底 3.4 高 7.1	① 粗砂多量、石英、雲母、黒色鉱物粒 ② 酸化 ③ ①にぶい橙7.5YR6/4	口縁部は内面に稜を有し、斜め上方へ立ち上がる。胴部は深みを有し、狭小な平底の底部に至る。口縁部はヨコナデ。胴部は部分的に極めて弱いタッチのヘラズリ。内面はユビナデ。	外面の一部に炭素吸着。
3	土師器 杯	① 北部 ② +14	残 ほぼ定形 口 12.1 高 6.1	① 粗砂多量、石英、白色軽石 ② 酸化 ③ 橙2.5YR6/6	口縁部は内面に稜を有し、短く外反する。外面の断面形は丸味を帯びる。底部は尖りぎみで丸底。口縁部はヨコナデ。底部の上半は丁寧なナデ、下半はヘラナデ、一部ミガキを重ねている。底面に半截竹管状の工具による刺突痕多量。	外面の一部に炭素吸着。
4	土師器 杯	② 埋没土	残 1/3 口 (12.2) 高 (6.0)	① 粗砂少量 ② 酸化 ③ 明赤焼2.5YR5/6	口縁部は内面に稜を有した後、短く内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラズリ、ヘラナデ。内面はヘラナデ。	内外面の一部に炭素吸着。

## 古墳時代の遺物

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①粘土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
5	土師器 杯	②埋没土	残 口～底部 破片 口 (14.6) 高 (7.4)	①細砂 ②酸化 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は外傾、斜め上方に立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面は丁寧なナデ。	縁きは更に起きる可能性あり。外面の一部に炭素吸着。
6	土師器 杯	①中央部 ②+6	残 ほぼ定形 口 13.0 高 7.9	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は短く、外傾弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上位の一部を除いて弱いタッチのヘラケズリ。内面はヨコナデ。ナデ。コップ状を呈し、口縁部の先端は器内が薄くなり突る。内外面ともナデ調整を施す。	内外面に炭素吸着。
7	土師器 ミニチュ ア	②埋没土	残 口縁部一 部欠損 口6.2 底4.4 高 3.2	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR6/4		
8	土師器 ミニチュ ア	②埋没土	残 1/2 口6.3 底4.0 高 4.2	①粗砂、細砂 ②酸化 ③橙7.5YR6/6	コップ状を呈する。内外面とも粗雑なナデ調整を施す。	割れ口を二次調整して利用している。
9	土師器 杯	①甕形 ③+8、埋没 土	残 口縁部先 端1/2欠損 口 (13.3) 底 5.2 高 6.4	①粗砂少量、軽石、黒 色鉱物粒 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は斜め上方に向かって外傾、先端は内彎して立ち上がる。狭小な平底。口縁部外面は上位ヨコナデ、中位以下、器面の乾燥が進んだ時にヘラケズリ。内面ヨコナデ、ナデ後、棒状工具による間隔の開いたミガキ。	内面の一部に炭素吸着。
10	土師器 杯	①甕形焼部	残 ほぼ定形 口 11.9 底 5.9 高 6.0	①粗砂、石英、黒色鉱 物粒 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR7/4	口縁部は緩やかに内彎して立ち上がる。底部は平底。口縁部は先端がヨコナデ。底部周辺はヘラナデ。	
11	土師器 杯	①甕形焼部	残 口縁部 1/3欠損 口9.6 底3.4 高 4.9	①粗砂、チャート、軽 石 ②酸化 ③橙7.5YR7/6	口縁部は内彎して立ち上がる。底部は狭小な平底。外面はヨコナデ、ナデ。下位にヘラナデ。	内面の全面と外面の一部に炭素吸着。
12	土師器 杯	①中央部 ②床直	残 2/3 口 (12.8) 底3.9 高6.8	①粗砂少量、石英 ②酸化 ③橙7.5YR6/6	口縁部は底部との間に弱い稜をつつく後、内彎ぎみに立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。内面は丁寧なナデ。	内外面の一部に炭素吸着。
13	土師器 杯	①西野磯穴	残 定形 口 11.6 底 2.6 高 6.1	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR6/4	器内は全体に厚く、重量有り。口縁部は内彎して立ち上がる。底部は狭小な平底。口縁部はヨコナデ。下位に弱いタッチのヘラナデ。内面はヨコナデ、ヘラナデ。	口縁部先端は内面が著しく磨耗している。内外面とも炭素吸着。
14	土師器 杯	②埋没土	残 口～底部 破片 口 (13.1) 高 4.8	①粗砂少量 ②酸化 ③明褐7.5YR5/6	口縁部は内彎ぎみに立ち上がる。狭小な平底。口縁部は先端をヨコナデ、以下ヘラナデ。内面はナデの上に棒状工具によるミガキを施す。	内面の一部に炭素吸着。
15	土師器 杯	①甕形口部 ②床直	残 定形 口 13.5 底3.3 高5.4	①粗砂少量、石英、軽 石②酸化 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は口縁部直下までヘラケズリ。内面はナデ。	
16	土師器 杯	①中央部 ②+10、埋没 土	残 定形 口 12.4 高 6.3	①粗砂少量、石英、軽 石②酸化 ③赤褐10YR4/4	口縁部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上半がナデ。下半がヘラケズリ。内面はヘラナデ。	外面の一部に炭素吸着。
17	土師器 杯	①東部 ②+4	残 1/3 口 (12.8) 高 5.7	①粗砂、チャート、石 英②酸化 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は外面に稜をなし内側に照凸、斜め上方に向かって立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は下半が弱いヘラナデ。	内面、淵側照凸。
18	土師器 杯	①東壘部 ②床直	残 ほぼ定形 口 13.5 高 5.8	①粗砂少量、石英 ②酸化 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	口縁部は内彎して立ち上がる。先端はやや突る。口縁部はヨコナデ。底部外面は口縁部直下までナデに近いヘラケズリ。内面はヘラナデ。	内外面とも炭素吸着。
19	土師器 杯	①南西部、甕 形焼部 ②+5	残 口縁部先 端欠損 口 12.3 高 7.1	①粗砂少量、石英、長 石、軽石 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上半がナデ。下半がヘラナデ。	内外面の一部に炭素吸着。
20	土師器 碗	②埋没土	残 口縁部 1/4 口 (11.7) 高 (5.3)	①粗砂、細砂、軽石 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR7/4	口縁部は内側に弱い稜をつくるが、外面は緩やかに彎曲して立ち上がる。胴部は弱く張る。口縁部はヨコナデ。胴部外面はヘラナデ。内面もヘラナデ。	破砕後、火熱あるいは炭素吸着か。



No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
21	土師器 碗	①柱穴1周冠 ②床直、埋没土	残 1/3 口 (10.2) 高 8.1	①粗砂、石英、軽石 ②酸化 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は内面に横をなし屈曲、斜め上方に短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は中～下位にヘラナデ。内面はヨコナデ、ナデ。	炭素吸着。火熱を受けているか。
22	土師器 碗	①腹周辺 ②床直、埋没土	残 はほぼ定形 口 10.3 底 3.4 高 6.6	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR7/4	杯部は大きく外反する。杯部外面はヨコナデ、ナデ。口縁部はヨコナデ。胴部、下位のみヘラナデ。内面、ヨコナデ、ナデ。	破砕後、炭素吸着。
23	土師器 高杯	①腹周辺 ②+8	残 はほぼ定形 口 10.2 脚 9.4 高 9.4	①粗砂少量、軽石、黒色鉱物粒 ②酸化 ③橙5YR6/6	杯部は内彎ぎみに立ち上がり、口縁部に至る。脚部は大きく外反する。杯部外面はヨコナデ、ナデ。脚部外面はハケメ後、ナデを重ねる。	外面の一部に炭素吸着。
24	土師器 甕	①中央部 ②+3、+6、埋没土、振り方	残 3/4 口 11.5 高 12.4	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR6/4	丸底である。胴部外面は肩部にハケメ。以下は横方向のヘラナデに一部ヘラミガキが重なる。底部付近は弱いヘラナズリ。内面はユビナデ。	外面、炭素吸着。
25	土師器 甕	①南壁際 ②床直、埋没土	残 1/2 口 (13.0) 底 5.8 高 13.8	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙5YR6/4	胴部外面は肩部にハケメ、ヘラナデ。以下は斜め縦方向のヘラナデ。内面も上位にハケメ、ユビナデ。中位以下はヘラナデ。	内外面、炭素吸着。破砕後も火熱を受けるか。
26	土師器 甕	①腹周辺 ②床直	残 完形 口 12.2 底 4.9 高 11.5	①粗砂少量 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は短く直立ぎみに立ち上がる。底部は狭小な凹底。口縁部はヨコナデ。胴部外面は肩部にハケメを残し、その下はナデ。下半は弱いクッチのヘラナズリを施す。内面はヘラナデ。	内面は割離顯著。一部に炭素吸着。火熱を受けているか。
27	土師器 甕	①北部、中央部 ②+3～+6、埋没土	残 2/3 口 11.2 底 4.1 高 15.5	①粗砂、細砂 ②酸化 ③橙10R5/6	胴部外面の上半はハケメ。下半はヘラナデ、ヘラナズリが混在。内面はヘラナデ。	
28	土師器 甕	①中央部 ②床直、+3、埋没土	残 はほぼ定形 口 18.9 底 5.8 高 13.1	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙5YR7/4	胴部下半はやや膨らむ。胴部外面は上半にハケメを残し、ヘラナデ。中位にヘラナズリ、下位にヘラナデ。内面はヘラナデ。	外面の一部に炭素吸着。
29	土師器 甕	①中央部 ②床直	残 はほぼ定形 口 18.5 底 6.2 高 12.8	①粗砂、石英、軽石 ②酸化 ③明赤褐5YR5/6	28に比べ下半の膨らみ弱い。胴部外面は最下位のヘラナデを除いてヘラナズリ。内面はヘラナデの上に間隙を開けて棒状工具によるミガキ。	内外面の一部に炭素吸着。
30	土師器 甕	①北西部 ②+11、埋没土	残 はほぼ定形 口 15.6 底 6.1 高 26.7	①粗砂少量 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	不安定な平底。胴部最大径は肩部にある。胴部外面はハケメの上にヘラナデを重ねているが、下半を中心にヘラミガキに近いものが立つ。中位の接合部分にはヘラナズリ状のナデ。内面はナデ、ヘラナデ。	外面の一部に炭素吸着。
31	土師器 甕	①中央部 ②+4、+5、埋没土	残 口縁部一部欠損 口 15.9 底 4.9 高 25.4	①粗砂、石英 ②酸化 ③明褐7.5YR5/6	器内は全体に薄い。胴部外面は上半が縦方向のハケメ。下半は縦方向のヘラナデ、ヘラナズリ。内面は上位から中位にかけて2種類のハケメを施す。下位はヘラナデ。	外面の一部に炭素吸着。
32	土師器 甕	①中央部 ②床直、+3、+4、埋没土	残 はほぼ定形 口 15.7 底 4.3 高 25.2	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR7/3	胴部外面は上半が縦方向のハケメ。中位にヘラナデ、下位にヘラナズリを施す。内面は横方向のヘラナデ。	外面、炭素吸着。火熱を受けているか。
33	土師器 甕	①東貯蔵穴	残 はほぼ定形 口 16.4 底 5.0 高 27.8	①粗砂 ②酸化 ③橙7.5YR5/6	胴部外面は上半に縦方向のハケメを施す。下半は斜め縦方向のヘラナズリとヘラナデが認められる。内面は横方向のヘラナデと考えられる。全体のバランスが崩れ、不安定な形状である。	火熱を受け、炭素吸着している。内面の下半は割離の割離顯著。
34	土師器 甕	①北部、中央部、北東部 ②床直、+3、+4、+5、+7、+10	残 口縁部一部欠損 口 16.9 底 5.9 高 25.9	①粗砂、石英、チャート ②酸化 ③にぶい赤褐5YR5/4	胴部外面は最下位にヘラナズリを施す。他はハケメを消して、縦方向のヘラナデを施す。一部はヘラミガキ状を呈する。内面は斜め、あるいは横方向のハケメを充填する。	外面、炭素吸着。

## 古墳時代の遺物

No.	種別 器種	出土状態 ①平面 ②断面	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
35	土師器 甕	①壺底焼部 ②埋没土	残 口縁部 1/3欠損 □15.9 底5.0 高 28.2	①粗砂、軽石 ②酸化 ③にぶい橙5YR7/4	胴部外面は上半が縦方向のハケメ、下半がナナメ縦方向のヘラナダ、ヘラズリ。内面は下半がヘラナダ、上半がハケメとヘラナダの混在。	火熱を受けている。 外面に炭素吸着。
36	土師器 甕	①中央部 ②床直、+3 ~+6、埋没 土、覆り方	残 ほぼ定形 口 18.2 底 4.0 高 28.8	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR7/4	胴部外面は上半が上から下方向にハケメを施す。下半は上位がヘラナダ、下位はヘラズリを施す。内面も下半はヘラナダ、上半にハケメを残す。	外面に炭素吸着、 著しい。
37	土師器 甕	①東部、東壁 部 ②床直、+7	残 口縁部一 部欠損 口 14.7 底 4.9 高 27.8	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にぶい橙5YR6/4	胴部外面は上半が丁寧なヘラナダを施す。下半はヘラズリとヘラナダが混在する。内面はヘラナダ。	内外面とも磨耗、 潤滑が著しい。火 熱を受けている。 外面の一部に炭素 吸着。
38	土師器 甕	①中央部、西 部、北部、電 ②床直、+3 ~+6、埋没 土	残 口~胴部 1/3欠損 口 16.2 底 4.6 高 26.9	①粗砂、黒色炭化物、 軽石 ②酸化 ③にぶい橙5YR7/4	胴部はやや歪みが生じている。胴部外面は上半に縦方向のハケメを、下半に縦方向のヘラナダを施し、一部横方向のヘラミガキが重なる。内面は横方向のヘラナダ、一部にハケメ有り。	外面に炭素吸着。
39	土師器 甕	①中央部、北 壁部 ②+4、+18、 埋没土	残 口縁部 1/2欠損 口 15.3 底 6.7 高 26.6	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR7/4	胴部外面は中位まで縦方向のハケメ、一部ヘラミガキ。下位はヘラナダ、ヘラズリが混在。内面はヘラナダ。	外面、炭素吸着。
40	土師器 甕	①北部、東部、 中央部 ②+5、+7、 +14、埋没土	残 胴部一部 欠損 口 14.3 底 7.2 高 26.7	①粗砂少量 ②酸化 ③橙5YR6/8	形状は著しく歪み、バランスを崩している。胴部外面はハケメ後、これをきれいにナダ消している。この上に下半を中心にナダ状のヘラミガキを施す。上半は極めて不規則。内面はヘラナダ。	外面の一部に焼成 時の炭素吸着。他 所に破砕後の炭素 吸着。
41	土師器 甕	①東部 ②+7、+11、 +13、+15、 埋没土	残 ほぼ定形 口 15.6 底 5.5 高 29.3	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR7/4	胴部外面は上半が縦方向のヘラナダ、中位は横方向のヘラナダ、下位はその上位にヘラズリ、下位にヘラナダ。内面は強いタッチのハケメ、下位にヘラズリ。	外面にスス付着。
42	土師器 甕	①東部、北東 部、北壁部 ②+6、+9、 +11、+15、 埋没土	残 口~胴部 下位 口 13.5 高 (28.0)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部の外反は弱いが、斜め上方に長く立ち上がる。口縁部外面はヨコナダの上にヘラミガキが重なる。胴部外面はヘラナダの上にヘラミガキが重なるが、全体に粗雑である。一部にハケメも残る。内面は中位から上位にヘラナダ、下位にハケメがみられる。接合痕は明確に残存。	外面に炭素吸着。
43	土師器 甕	①南西部、南 壁部、電 ②床直、+5、 埋没土	残 口~胴部 下位 口 15.7 高 (25.7)	①粗砂、軽石 ②酸化 ③にぶい橙5YR6/4	胴部外面は上半に上から下方向のハケメを施す。下半の上位はハケメを横方向にナダ消しているが、部分的に粗雑な調整である。下位は斜め縦方向のヘラナダを施す。	外面の一部に炭素 吸着。破砕後火熱 を受けているか。
44	土師器 甕	①西野竈穴 ②埋没土	残 口縁部一 部欠損 口 23.8 底 7.6 高 24.2	①粗砂、軽石 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR6/3	器高に対し、口径の大きな形状である。胴部外面は上半が縦方向のハケメ、下半は上位に横方向のヘラズリ、ハケメが、下位に斜め縦方向のヘラナダが施される。内面は横方向のハケメ、ヘラナダと考えられる。	外面下半に炭素吸 着。
45	土師器 甕	②埋没土	残 上半1/2 口 (23.8) 高 (10.7)	①粗砂、軽石 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR6/3	胴部外面は縦方向のヘラズリ。内面は横方向のヘラナダ。	内面の一部に炭素 吸着。
46	土師器 甕	①柱穴1周辺 ②床直、+7、 埋没土	残 上半1/2 口 19.8 高 (16.1)	①粗砂少量 ②酸化 ③にぶい橙5YR6/4	胴部は丸く張る。外面は斜め縦方向のハケメを、内面は横方向のヘラナダを施す。	
47	土師器 甕	①北東部 ②+9、埋没 土	残 口~胴部 下位 口 15.9 高 (23.1)	①粗砂 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR6/4	胴部外面は縦方向のハケメを施す。下位は斜め縦方向のヘラズリ。内面は中位や下位にハケメを残す他は、横方向のヘラナダ。この上に縦方向のヘラズリともみられるヘラミガキが粗雑に重ねられている。	外面に炭素吸着。

No.	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
48	土師器 甕	①北西部 ②+11	残 口縁部 1/2~胴 部上位 口 14.9 高 (12.7)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR7/4	胴部外面はハケメの上にヘラナデを重ねる。内面はヘラナデ。	内外面の一部に炭素吸着。
49	土師器 甕	①中央部、西部 ②+5、+9、埋没土	残 口~胴部 上位 口 15.6 高 (16.0)	①粗砂少量、軽石、長石 ②酸化 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は斜め上方に向けて外傾する。口縁部はヨコナデ。胴部外面は縦方向にヘラナデ、一部にミガキを重ねる。内面、斜め横方向のヘラナデ。	破砕後、火熱を受けて炭素吸着か。
50	土師器 甕	①北壁際 ②+15、埋没土	残 口~胴部 口 13.4 高 (17.0)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR7/4	胴部外面は弱いタツナのハケメとナデが施される。内面はヘラナデ。	外面、炭素吸着。
51	土師器 甕	①北部、北東部 ②+6、+9、+15、埋没土	残 口~胴部 口 17.8 高 (17.5)	①粗砂、細砂、白色軽石 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR7/4	胴部外面の上半は縦方向にハケメ後、中位にヘラナデ。内面は上位が斜め縦方向のヘラナデ。中位は斜め方向のヘラナズリ。	外面、炭素吸着。
52	土師器 甕	①柱穴4周辺 ②+6	残 口~胴部 上位 口 14.1 高 (6.5)	①細砂 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR6/4	内外面ともヘラナデ。	旧事に欠損。二次利用か。
53	土師器 甕	①甕右袖部脇 ②床直	残 口~胴部 上位 口 16.8 高 (7.7)	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙5YR7/4	胴部外面はハケメ。内面はヨコナデ。	欠損後も二次利用か。
54	土師器 甕	①北部、中央部 ②+3、+4、+5、埋没土	残 ほぼ定形 口 30.8 底 8.8 高 22.7	①粗砂 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR5/3	胴部外面は上位から中位が縦方向のナデの上に横方向のミガキを重ねる。下位は斜め横方向にヘラナデ。内面はヘラナデ。	内外面とも炭素吸着。
55	土師器 甕	①中央部、西部、甕 ②床直、+5、埋没土	残 ほぼ定形 口 19.7 底 8.0 高 21.9	①細砂 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR7/4	胴部外面は縦方向のハケメ後、下位にヘラナデ。内面はヘラナデ。一部にハケメを残す。	外面の一部に炭素吸着。
56	土師器 甕	①北西部 ②+11、埋没土	残 口縁部 1/3欠損 口 18.7 底 8.0 高 19.7	①細砂 ②酸化 ③橙5YR6/6	胴部外面は下端に弱いケズリを施す他は丁寧なヘラナデ。内面は下位にヘラナズリ、他はヘラナデ。下端は欠損著しい。	外面の一部に炭素吸着。
57	土師器 甕	①西野竈穴	残 ほぼ定形 口 16.9 底 4.6 高 16.6	①細砂 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	底部には一辺1.5cmほどの隅丸方形の孔が穿たれている。胴部外面は最上位にハケメ、以下はヘラナデ。内面は上半にハケメ、下半にヘラナデを施す。	内面に灰白色の付着物有り。
58	土師器 甕	①北部、北壁際 ②+5、埋没土	残 1/3 口 (19.7) 高 (22.0)	①粗砂少量、石英 ②酸化 ③にぶい橙7.5YR7/4	胴部外面は多方向からのヘラナデ。内面は下位にヘラナズリがみられる他はヘラナデ。	底部欠損後も使用していたか。内外面とも炭素吸着。
59	土師器 甕	①北部、中央部、南西部 ②床直、+4、+5、+6、埋没土	残 2/3 口 (23.0) 底 8.4 高 31.7	①粗砂 ②酸化 ③明赤褐5YR5/6	胴部外面は縦方向のナデに近いヘラミガキ、上手を中心にハケメを残す。内面も上半は縦方向に粗雑なヘラミガキを施す。	外面の一部に炭素吸着。
60	土師器 甕	①中央部、北部 ②床直、+3、+4、+5、埋没土	残 ほぼ定形 口 20.5 底 8.4 高 25.8	①粗砂、軽石 ②酸化 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部の先端は面をなす。胴部外面は上半の一部にハケメを残すもののヘラナデ、一部ヘラナズリを施す。内面は縦あるいは斜め縦方向に長い単位のヘラナデを施す。	外面には土器焼成時の炭素吸着の他に、使用に伴う炭素吸着。

## 古墳時代の遺物

## 11号住居 (第67図、P.L41・42)

No.	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 ミニチュア	②埋没土	残 底部破片 底 (2.5) 高 (2.5)	①細砂 ②酸化 ③浅黄2.5Y7/3	平底の鉢状を呈していたか、内外面ともナデ。	
2	土師器 杯	①北東部 ②+5、+9、埋没土	残 3/4 口 12.7 高 6.4	①粗砂、石英、軽石 ②酸化 ③①におい燈7.5YR6/4	口縁部は内彎して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上半がナデ、下半がヘラケズリ。内面、棒状工具による放射状のミガキ。	器面は歪みが生じている。破砕後、火熱を受けている。炭素吸着。
3	土師器 碗	①南壁際 ②+6	残 1/4 底 5.2 高 (7.9)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③燈5YR6/6	口縁部は先端が欠損する。口縁部はヨコナデ。胴部外面は中位にヘラナデ、下位にヘラケズリ。内面は丁寧なヘラナデを施す。	
4	土師器 杯	①龍右袖部 ②+18	残 1/2 口 (14.3) 底 3.9 高 5.8	①粗砂、軽石、黒色鉱物粒 ②酸化 ③①におい黄橙10YR5/3	口縁部は内彎して立ち上がる。底部は狭小な平底。口縁部はヨコナデ、以下丁寧なナデ。底部近くはヘラケズリに不规则なミガキを重ねる。底部外面はヘラケズリ。内面は丁寧なナデ。	内外面とも炭素吸着。
5	土師器 埴	①柱穴2周辺 ②+5	残 口縁部下 半-胴部 上位 高 (10.9)	①粗砂少量、石英 ②酸化 ③赤10R5/6	口縁部は外側高く、斜め上方に直線的に立ち上がる。胴部は丸く張る。口縁部は横方向のナデ。外面はこれに縦方向のミガキ。胴部は外面が丁寧なナデ。内面もナデ。指頭圧痕。	炭素吸着。
6	土師器 甕	①甕突口部 ②床直	残 口-胴部 上半1/3 口 12.9 底 (8.5) 高 (10.9)	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③①におい燈7.5YR6/4	口縁部は弱く屈曲、斜め上方に短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面は横方向のヘラナデ。内面はナデ。	火熱の為、内面、剥離顯著。
7	土師器 甕	①柱穴1周辺 ②+7、埋没土	残 口縁部一 部欠損 口 17.0 底 7.8 高 27.4	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③①におい黄橙10YR7/3	胴部は下側で急速に径を狭め、平底の底部へ移行する。成形が粗雑で器形上に製作工程の単位が残存している。胴部外面は4個に分けてヘラナデを施す。下位のそれは器面を削るようには施されるが、砂粒の動きは少ない。内面は全面ヘラナデ。	外面に炭素吸着。
8	土師器 甕	①東壁際 ②+10、埋没土	残 2/3 口 (16.9) 底 5.8 高 30.4	①粗砂、黒色鉱物粒 ②酸化 ③①におい燈7.5YR5/4	胴部外面は上位から中位に斜め縦方向のハケメ、下位にヘラケズリを施す。内面はヘラナデ。	外面上位より上寄りにスス付着。内面、剥離顯著。
9	土師器 甕	①南西隅、甕突口部 ②床直、+7、埋没土	残 1/2 口 18.0 底 (5.3) 高 26.3	①粗砂少量、チャート ②酸化 ③燈5YR6/6	胴部外面は上半が縦方向のハケメ、下半が縦方向のヘラナデの上に横方向のヘラケズリを重ねる。内面は横方向のハケメを施す。	火熱を受けている。
10	土師器 甕	①龍右袖部 ②床直	残 はほぼ定形 口 13.5 底 4.8 高 25.1	①粗砂、細砂 ②酸化 ③①におい燈7.5YR7/6	不安定な形状。胴部外面は縦方向のヘラナデ。中位は横方向、最下位は斜め縦方向のヘラケズリを施す。内面は丁寧なヘラナデ。	火熱の為か、内外面とも下半は器面の剥離顯著。
11	土師器 甕	①甕底部 ②埋没土	残 口-胴部 下位1/2 口 (14.4) 底 (20.6)	①粗砂 ②酸化 ③①におい燈5YR6/4	胴部外面は斜め縦方向のハケメ。これに横方向のヘラナデ、ヘラミガキを重ねる箇所もある。内面はヘラナデ。	
12	土師器 甕	①中央部 ②床直、埋没土	残 はほぼ定形 口 16.5 底 6.0 高 30.5	①粗砂、軽石 ②酸化 ③①におい黄橙10YR5/4	底部に対し、口縁部は著しく水平を欠いている。球脚。胴部外面は縦方向のハケメを施した後、下半にはヘラナデを加え、接合部分はヘラケズリで器面を調整している。内面はヘラナデ。口径は大きく、胴部の締まりも弱い。胴部外面は上位に縦方向のハケメを残す他は、横方向のヘラナデを施す。ハケメ直下は幅が狭く、ミガキ状を呈する。底部近くはヘラナデ。内面は上半が横方向のハケメ、下半がナデと思われるが、器面の剥離が著しい。	外面にスス付着。内面の剥離顯著。
13	土師器 甕	①東部 ②+13、埋没土	残 口縁部 1/2欠損 口 25.5 底 8.0 高 29.2	①粗砂、石英、軽石 ②酸化 ③①におい燈5YR6/4		外面の一部に炭素吸着。

## 12号住居 (第70図、P.L.42)

№	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考			
							材質	計測値	
				全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	
1	土師器 杯	①柱穴4 ②埋没土	残 ほぼ定形 口 14.4 高 4.4	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③橙7.5YR7/6	器内は厚く、重畳有り。口縁部は内折きみに斜め上方に立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はミガキ様のヘラナデ。	口縁部の欠損は旧事の割れ口多し。火熱を受けているか。			
2	土師器 杯	②埋没土	残 1/3 高 (3.5)	①粗砂少量、黒色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部は底部から内側に屈曲、短く立ち上がったか。口縁部はヨコナデ。底部外面は丁寧なヘラケズリ。	口縁部の欠損は旧事、二次調整が施された可能性有り。器面、炭素吸着。火熱を受けている。			
3	土師器 杯	①東壁断、竈 ②+4、埋没土	残 口縁部一部欠損 口 14.6 高 4.8	①粗砂、細砂、白色軽石、黒色鉱物粒 ②酸化 ③灰黄褐10YR6/2	口縁部は中位に弱い傾を有し、斜め外方に大きく外反する。口縁部はヨコナデ。底部外面は弱いタッチのヘラケズリ。				
4	土師器 壺	①北東部 ②床直、埋没土	残 口～胴部 上位1/3 口 (19.4) 高 (13.1)	①粗砂 ②酸化 ③橙7.5YR7/6	口縁部は大きく外反して立ち上がる。胴部は長胴を呈すと考えられる。胴部外面は腹方向にヘラケズリ。内面はヘラナデ。				
5	土師器 壺	②埋没土	残 口～胴部 上位1/3 口 (15.8) 高 (9.6)	①細砂、粗砂少量 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR6/4	口縁部は外反して立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面は鈍い腹方向のヘラナデ。内面は横方向のヘラナデ。	器面の一部に炭素吸着。			
6	石製品 砥石	①南壁断ピット	定形	粗粒輝石 安山岩 (川原石)	44.5	27.0	9.7	9000	扁平な礫を砥石として使用している。表面とした面は長軸方向中央部分が緩やかに窪み、磨耗痕が認められる。この部分に長軸方向に平行する刃傷状の削痕が多数あり、右下位にも同様の削痕が残されている。裏面は、中央右側部分に表面同様の削痕が長軸方向に直交して多数残されている。中央やや下端寄りには磨打の集合痕がある。一部に磨耗痕の残る部分もある。左側面は、幅4.8cmの平滑面があり、研ぎ面磨耗痕が認められる。

## 13号住居 (第73・74図、P.L.42・43)

№	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考			
							材質	計測値	
				全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	
1	土師器 杯	①南部 ②床直、埋没土	残 2/3 口 13.4 底 4.1 高 6.0	①粗砂少量、軽石 ②酸化 ③赤褐色5YR5/8	口縁部は内彎して立ち上がる。底部は狭小な平底。口縁部はヨコナデ。以下外面はナデ、ヘラナデ。内面はナデの上に棒状工具によるミガキを重ねている。				
2	土師器 杯	①南部 ②床直	残 2/3 口 11.9 底 3.7 高 5.8	①粗砂少量、黒色鉱物粒、軽石粒 ②酸化 ③橙2.5YR6/6	口縁部は内彎して立ち上がる。底部は狭小な平底。口縁部はヨコナデ。胴部下半は弱いタッチのヘラナデ。	外面、スス付着。			
3	土師器 杯	①竈右側部	残 ほぼ定形 口 13.1 底 5.7 高 4.9	①粗砂少量、軽石、黒色鉱物粒 ②酸化 ③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部は内彎して立ち上がる。底部はヘラケズリにより、直径の大きな平底面を形成している。口縁部はヨコナデ、以下外面はヘラケズリ。内面はナデ。	火熱を受けているか。			
4	土師器 杯	①竈断絶部 ②埋没土	残 ほぼ定形 口 14.0 高 5.5	①粗砂、チャート、軽石 ②酸化 ③橙2.5YR6/6	口縁部は内側に後をなした後屈曲、内彎きみに短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上半にナデ、下半にヘラケズリ。内面はナデ後、放射線状に棒状工具によるミガキを施す。	若干、火熱を受けているか。			
5	土師器 杯	①北部、北壁断 ②+4、+5、+6、埋没土	残 1/2 口 (13.1) 高 5.2	①粗砂少量 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は内側に後をなした後屈曲、内彎きみに短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面は上半にナデ、下半にヘラケズリ。内面はナデ後、放射状に棒状工具によるミガキを施す。	炭素吸着。			

## 古墳時代の遺物

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量 (cm)	①胎土②焼色③色調	成・整形の特徴	備考
6	土師器 杯	②埋没土	残 1/3 口 (14.6) 高 (5.1)	①細砂②酸化 ③(外)橙5YR6/6(内)明赤褐2.5YR5/6	口縁部は内面に稜をなした後、短く彎曲みに斜め上方に立ち上がる。底部下半はヘラミガキ。内面は棒状工具により放射状にミガキを施す。口縁部は内面に稜をなし屈曲、短く立ち上がる。底部外面は下半にヘラケズリ。内面は棒状工具により放射状のミガキ。	
7	土師器 杯	①南東部東壁際 ②床直	残 1/2 口 13.0 高 4.2	①粗砂 ②酸化 ③ふい橙5YR6/4	口縁部は内面に稜を有し、短くつままれるように立ち上がる。外面は口縁部から底部上位にヨコナデ。下半はヘラナデ、あるいは極めて弱いヘラケズリ。	炭素吸着。
8	土師器 杯	①南部 ②+9	残 ほぼ完形 口 12.4 高 5.2	①粗砂多量、チャート、石英、軽石粒 ②酸化 ③橙7.5YR6/6	口縁部は内面に稜を有して屈曲、短く立ち上がる。底部外面は下半にヘラケズリ。内面は棒状工具により放射状にヘラミガキ。	外面に炭素吸着。
9	土師器 杯	①北部 ②+14	残 1/3 口 (13.0) 高 (4.0)	①粗砂 ②酸化 ③橙7.5YR6/6	口縁部は内面に稜を有して屈曲、短く立ち上がる。底部外面は下半にヘラケズリ。内面は棒状工具により放射状にヘラミガキ。	外面に炭素吸着。
10	土師器 杯	①南東部東壁際 ②床直	残 1/3 口 (14.8) 高 (4.7)	①粗砂 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は内面に稜をなして屈曲、短く立ち上がる。底部外面は下半にヘラナデ。内面は棒状工具によるミガキを放射状に施す。	外面に炭素吸着。
11	土師器 杯	①南東部 ②床直	残 2/3 口 14.0 高 6.4	①粗砂多量、白色軽石 ②酸化 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は内面に稜を有し、屈曲して短く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部上半は成形時の器面に弱いナデ、下半はヘラケズリを施す。	火熱を受け、炭素吸着。
12	土師器 碗	②埋没土	残 4/5 口 12.7 高 8.8	①粗砂、石英、チャート、軽石、黒色鉱物粒 ②酸化 ③橙5YR6/6	口縁部は内面に稜を有し外方に屈曲、短く立ち上がる。外面は底部下位に弱いタッチのヘラケズリ。中位は丁寧なナデ。底部はやや平底を意識したか。	外面、磨耗。内面、剥離顕著。灰白色の付着物がみられる。
13	土師器 碗	①南壁際 ②+5、埋没土	残 口縁部 1/2欠損 口 10.4 高 7.8	①粗砂、石英、チャート、軽石 ②酸化 ③ふい黄橙10YR7/4	口縁部は直径が大きい。短く外傾弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。胴部外面は上半がヘラナデ、下半がヘラケズリ。内面はナデ。	内面にスス付着。
14	土師器 碗	①南部 ②床直	残 完形 口 12.1 高 7.6	①粗砂、チャート ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は広径で短く、外反弱く立ち上がる。底部下位は器内が深い。口縁部外面はヨコナデ。外面はヘラケズリ。内面はナデ後、棒状工具によるミガキを重ねる。	内外面とも炭素吸着。
15	土師器 壺	②埋没土	残 胴部下半 ~底部 底 4.5 高 (8.7)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	胴部は内外面ともヘラナデ。	
16	土師器 壺	①中央部 ②床直、埋没土	残 口~胴部 上半 口 15.5 高 (13.0)	①粗砂、黒色鉱物粒 ②酸化 ③ふい橙5YR6/4	胴部外面はヘラナデの上に一部横方向のヘラケズリを重ねる。内面は横方向のヘラナデ。器面に粘土が貼り付き、調整の観察困難。	火熱を受けているか。
17	土師器 壺	①北東部 ②床直	残 ほぼ完形 口 20.6 底 6.2 高 16.7	①粗砂、軽石 ②酸化 ③橙7.5YR6/6	胴部外面は中位から下位と最下位にヘラケズリ、他はヘラナデを施す。内面はヘラナデ。	外面、炭素吸着。
18	土師器 壺	①南東隅 ②床直	残 ほぼ完形 口 19.3 底 9.2 高 38.9	①粗砂、細砂 ②酸化 ③明赤褐5YR5/6	胴部の成形が粗雑で、形状は大きく歪んでいる。胴部外面は上半がハケメ後、粗雑なヘラナデを重ねる。下半は胴部最大径の部分がヨコ、以下は縦方向のヘラケズリを施す。内面は横方向のヘラナデ。	内外面、炭素吸着。
19	土師器 壺	①竈壁基部	残 ほぼ完形 口 16.5 底 4.5 高 28.6	①粗砂、細砂 ②酸化 ③ふい橙7.5YR7/4	胴部外面は上半に縦方向のハケメ、下半はヘラナデに一部ヘラケズリが重なる。内面は下半にヘラナデ、上半にハケメを施す。	炭素吸着、火熱を受け、胴部上半は器面磨滅。
20	土師器 壺	①北壁際 ②+9、埋没土	残 口~胴部 上位1/3 口 (16.0) 高 (13.9)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③ふい橙5YR7/4	胴部外面は弱いタッチのハケメ。中位はヘラナデに一部ヘラミガキを重ねる。内面はヘラナデ。	破砕後、炭素吸着。

No.	種別 種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
21	土師器 壺	②埋没土	残 口～胴部 上位1/2 口 (16.2) 高 (15.3)	①粗砂、細砂 ②焼成 ③にぶい黄緑10YR7/4	胴部上半は縦方向のハケメ。中位は横方向のヘラナデ。一部にヘラケズリ。内面はヘラナデ。	破砕後、炭素吸着。
22	土師器 甗	①中央部 ②床直、埋没土	残 はほぼ定形 口 24.0 底 9.1 高 30.1	①粗砂、チャート、石英 ②焼成 ③にぶい黄緑10YR7/4	胴部は口縁部後と同規模に張り出す。胴部外面は数回に分けて斜め方向にヘラナデを施す。下位は一部ヘラケズリ、ヘラミガキを重ねる。内面は縦方向のヘラナデ。	外面に炭素吸着。ススカ。
23	土師器 甗	①南東部東壁 ②床直	残 はほぼ定形 口 20.0 底 9.0 高 24.2	①粗砂少量 ②焼成 ③明赤調2.5YR5/6	口縁部に最大径を有し、胴部は張らない。胴部外面は縦方向にヘラミガキを施す。内面もナデの上に粗粒にヘラミガキを重ねる。下端はヘラケズリ。	外面の一部に炭素吸着。

## 1号墳 (第75図、P L 17・18)

No.	種別 種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 杯	①前庭 ②埋没土	残 定形 口 15.0 底11.3 高2.8	①黒色炭物粒発泡 ②還元 ③灰5Y6/1	口縁部は器高に比較して大径。外傾斜と上方に立ち上がる。左回転ロクロ成形。底部は回転を伴うヘラ切り難し後、周縁部にヘラケズリ調整。右回転ロクロ成形。底部へラ切り難し後、口縁部下位をヘラケズリ。	
2	須恵器 杯	②埋没土	残 底部破片 底 (9.0) 高 (1.7)	①石英粒少量 ②還元、やや軟質 ③灰白5Y7/2	①粗砂、細砂、白色炭物粒 ②還元 ③灰NS/	胴部外面には断面台形状の補強帯が走る。口縁部外面は無文。ロクロ使用のナデ調整。内面はエビナデ。
3	須恵器 大甗	①周堀 ②埋没土	残 口縁部上 位～胴部 上位破片 高 (7.5)	①粗砂、細砂、白色炭物粒 ②還元 ③灰NS/	①白色炭物粒②還元、 黒鉄③灰7.5Y5/1	外面、印目。内面、ナデ調整。
4	須恵器 大甗	①前庭 ②埋没土	残 胴部破片	①白色炭物粒②還元、 黒鉄③灰7.5Y5/1	①白色炭物粒②還元、 黒鉄③灰7.5Y5/1	外面、印目。内面、当目を完全にナデ消している。
5	須恵器 大甗	①前庭 ②埋没土	残 胴部破片	①白色炭物粒少量 ②還元③灰7.5Y6/1	①白色炭物粒少量 ②還元③灰7.5Y6/1	外面、印目か。内面、同心円文状の当目を残す。
6	須恵器 大甗	①前庭 ②埋没土	残 胴部破片	①白色炭物粒、黒色炭物発泡②還元③灰N4/	①白色炭物粒、黒色炭物発泡②還元③灰N4/	外面、印目の上にカキ目を施す。内面には同心円文状の当目を残す。
7	須恵器 大甗	①前庭 ②埋没土	残 胴部破片	①白色・黒色炭物粒 ②還元③灰NS/	①白色・黒色炭物粒 ②還元③灰NS/	外面、若い印目。内面、同心円文状の当目を残す。
8	須恵器 大甗	①前庭 ②埋没土	残 胴部破片			外面に自然輪付着。

## 2号墳 (第83図、P L 19)

No.	種別 種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 長頸壺	①前庭 ②埋没土	残 口縁部上 位1/2 口 (10.0) 高 (6.0)	①黒色・白色炭物粒多 量 ②還元 ③灰N6/	筒状を呈し、上方に向かって徐々に外傾する。内外面とも右方向のロクロ回転を伴うナデ調整を施す。	
2	須恵器 台付長頸 壺	①前庭、1号 ②埋没土	残 胴部2/3 ～台部 台 (11.2) 高 (13.6)	①黒色炭物粒 ②還元 ③灰7.5Y6/1	胴部には沈積区画内に12本1單位のクシ状工具による刺突文が一廻りする。左回転ロクロ成形。外面は中位から下位にかけて回転を伴うヘラケズリを施す。	
3	須恵器 壺	①周堀 ②埋没土	残 胴部破片	①白色炭物粒少量 ②還元、良好 ③灰N6/	①白色炭物粒少量 ②還元、良好 ③灰N6/	外面、疑似格子目状の印目。内面、同心円文状の当目を施す。
4	須恵器 壺	①周堀 ②埋没土	残 胴部破片	①長石、石英粒少量 ②還元、やや軟質 ③灰7.5Y6/1	①長石、石英粒少量 ②還元、やや軟質 ③灰7.5Y6/1	外面、印目。内面、同心円文状の当目を施す。

## 古墳時代・近世以降の遺物

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
5	須恵器 甕	①周廻 ②埋没土	残 胴部破片	①白色鉱物粒少量 ②還元③K6/	外面、疑似格子目状の印目。内面、同心円状の当目を施す。	
6	須恵器 甕	①周廻 ②埋没土	残 口縁部破片	①白色鉱物粒少量 ②還元、堅緻 ③(外)輝緑7.5GY3/1 (内)緑灰7.5GY5/1	大きく外反して立ち上がる。先端は外面に狭い凹状の面をつくる。外面の先端真下には断面3角形のシャープな突起が巡る。内外面ともナデ調整を施す。	自然釉が付着している。
7	土師器 鉢	①前庭、周廻 ②埋没土	残 1/2 口 (11.0) 底 7.0 高 6.1	①粗砂 ②酸化 ③赤褐5YR4/8	口縁部の先端はヨコナデ。以下、外面は粗雑なナデ。内面は丁寧なナデ。	
8	土師器 杯	①周廻 ②埋没土	残 1/2 口 (10.2) 底 5.7 高 5.7	①粗砂少量、チャート、石英②酸化 ③明赤褐2.5YR6/6	口縁部はほぼ真上に立ち上がる。口縁部はヨコナデ。底部外面はヘラナデ、ヘラズリ。	
9	土師器 杯	①周廻 ②埋没土	残 ほぼ完整 口 14.4 底 3.6 高 5.3	①粗砂少量、チャート ②酸化 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は内彎して立ち上がる。底部は狭小な平底。口縁部は先端をヨコナデ。以下はナデ、ヘラズリの上に一部ヘラミガキを重ねる。内面は棒状工具によるミガキを加える。	

## 3号墳 (第86図、P.L20)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	須恵器 付合皿	①前庭、周廻 ②埋没土	残 胴部下位 ~台部1/2 台 12.4 高 (10.2)	①白色鉱物粒 ②還元 ③K5Y5/1	左回転ロクロ成形。外面の一部に回転を伴うヘラズリ調整。内面も底部近くはナデ調整を加えている。	焼成は焼き締められていない。
2	須恵器 甕	①周廻 ②埋没土	残 胴部破片	①黒色鉱物発泡 ②還元③K5/	外面、印目。内面、ナデを施す。	
3	須恵器 甕	①詳細不明	残 胴部破片	①白色鉱物粒少量 ②還元③K6/	外面、疑似格子目状の印目。内面、同心円状の当目を施す。	
4	土師器 杯	①前庭 ②埋没土	残 口縁部下位 ~底部1/3 底 (10.0) 高 (5.8)	①細砂微量、夾雑物少量②酸化 ③(外)にふい責橙10YR6/4(内)黒10YR2/1	内面、黒色処理。内外面とも棒状工具による横方向のミガキを充填する。	

## 1号土坑 (第88・89図、P.L21)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 杯	②埋没土	残 1/4 口 (12.0) 高 (4.5)	①細砂少量 ②酸化 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は底部との間に明瞭な稜を有した後、上方に立ち上がる。底部外面は下半にヘラズリを施す。	
2	土師器 甕	②埋没土	残 口~胴部 上位 口 13.8 高 (5.8)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③にふい責橙2.5YR6/4	胴部外面はハケメの上にヘラナデを重ね、更に部分的に横方向のヘラズリを施している。内面はハケメの上にヘラナデ。	
3	土師器 甕	①北部、東部、 南西部 ②底面直上、 埋没土	残 口~胴部 下位 口 20.6 高 (45.3)	①粗砂 ②酸化 ③橙2.5YR6/6	口縁部は中位に弱い稜をなし、二重口縁状を呈する。外面は上位にヘラミガキがみられる。中位はヘラズリが認められるが、この上にミガキが施されるか、内面はヘラナデ。	内外面とも器面は磨耗、磨減が著しい。
4	土師器 甕	①北部 ②底面直上、 埋没土	残 口~胴部 上位3/4 口 21.0 高 (12.0)	①粗砂、白色軽石粒 ②酸化 ③浅黄2.5Y7/4	口縁部の先端は平坦な面をなす。胴部外面はヘラズリ。内面はヘラナデ。	2と同一個体か。
5	土師器 甕	②埋没土	残 口~胴部 上位 口 19.9 高 (9.3)	①細砂、軽石 ②酸化 ③橙7.5YR7/6	口縁部の先端は丸味を帯びる。胴部外面はヘラナデ後、棒状工具によるミガキを施す。内面はヘラナデ。	



No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
6	土師器 壺	①北部、東部、 3号住 ②底面直上、 埋没土	残 口～胴部 1/2 口 21.0 高 (23.5)	①粗砂、細砂 ②酸化 ③明黄緑2.5Y6/6	口縁部は大きく外反して立ち上がり、先端は平坦面を外方に向ける。中に沈線1条が通る。胴部外面はヘラケズリ、ヘラナデ。内面は横方向のヘラナデ。	
7	土師器 甕	①東部、3号住 ②底面直上、 埋没土	残 胴部中位 ～底部1/3 底 6.4 高 (20.0)	①粗砂、軽石含 ②酸化 ③にじい黄緑10YR7/4	胴部外面はヘラケズリ。内面はココナデ。	
8	須恵器 大甕	①中央部、北 東部、3号住 ②底面直上、 埋没土	残 1/2 口 (24.2) 高 (48.7)	①チャート、石英 ②還元 ③灰7.5Y5/1	口縁部先端は外面に稜をなす。胴部は肩が大きく張り、外面は叩目を内面にはナデを施す。当目はほとんど残っていない。	外面に自然釉が厚く付着する。2片から頭上復元。
9	須恵器 大甕	①中央部、北 部、南部、東 部、北西部、 3号住 ②底面直上、 埋没土	残 口～胴部 下位1/2 口 40.0 胴 65.0 高 (71.2)	①白色・黒色灰物較少量 ②還元 ③暗灰N3/	口縁部は大きく外反する。先端は外面に狭い平坦面をなし、直下に断面三角形の尖帯が通る。肩部接合部は内面を丁寧にヘラでナデる。胴部は胴形を呈し肩部張り出す。口縁部外面は2条1単位位の波長の高い波状文が1段、中・下段に波状文2段を巡らす。口縁部内面は横方向に丁寧なナデ。内面に青海波状の当目が残るが不鮮明で、底部近くはナデ消している。	軸は偏って降っており、甕の中では斜めに置かれている。

## 4号井戸 (第98・99図、P.L.22)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土・軸 ②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	陶器 甕	②埋没土	残 1/2 口 12.0 台5.2 高7.3	①やや緻密。透明釉 ②普通 ③断面淡灰色	陶胎染付け。東屋山水意匠。貫入あり。	波佐見系。
2	陶器 小甕	②埋没土	残 口縁部下 位～高台部 台 4.0 高 (3.9)	①いわゆるモグサ土。 胎釉 ②普通 ③断面灰黄色	高台の形状は様でない。発付部に糸切り痕を残す。内外面輪軸を施すが、内面の孔薄著しい。高台周辺無軸。	瀬戸美濃系。
3	陶器 甕	②埋没土400	残 ほぼ完形 口 9.8 台 5.0 高 5.5	①白色片目混じる。細 輪・灰釉。 ②やや軟調 ③断面薄白色	軸は外面上下分けの腰筒輪。焼成前のヒビ多い。やや焼き歪む。発付部分磨滅。灰釉厚めで細貫入多い。	瀬戸美濃系。
4	磁器 小甕	②埋没土	残 口縁部片 口 (10.0) 高 (3.3)	①透明釉 ②普通 ③断面乳白色	薄手。発付けの可能性あるが残る部分には輪紋見られない。	肥前系。
5	軟質陶器 焙烙	②埋没土	残 破片 口 (44.6) 底 (41.4) 高 5.4	①軽量 ②やや硬調。 ③内面淡灰色	型作り、ロクロ調整。耳不明。	江戸時代在地系。 外面スス付着。内 底も一部スス付着。
6	軟質陶器 焙烙	②埋没土	残 1/4 口 (39.0) 底 (35.5) 高 5.5	①普通 ②普通 ③灰色味や黄色味等帯 び様でない	型作り、ロクロ調整。口縁外面下端にヘラケズリ。耳不明。	江戸時代在地系。 外面スス付着。
7	軟質陶器 焙烙	②埋没土	残 破片 口 (29.6) 高 (3.3)	①やや砂質 ②硬調 ③全体に淡黄色	型作り。耳不明。	近代。
8	軟質陶器 甕	②埋没土	残 破片 高 (4.2)	①普通 ②普通 ③内面暗灰色	口縁端部は直線的に伸びている。	在地系。外面スス 付着。
9	軟質陶器 甕	②埋没土	残 破片 高 (4.9)	①細粒数見②普通 ③内面灰白色	口縁端部外方へ折れる。	在地系。外面一部 スス付着。
10	軟質陶器 焙烙	②埋没土	残 細片 高 (3.5)	①やや軽量 ②普通 ③内面暗灰色	型作り、ロクロ調整。耳不明。	在地系。外面スス 付着。

近世以降の遺物

5号井戸 (第100・101園, P.L22)

No	種別 器種	出土状況 ① 平面 ② 垂直	残存状況	計測値				特徴
				全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
1	金属器 煙管煙首	②-400	完存	5.0			6	火皿は若干潰れ、長円形を呈する。磨返しの間曲はほとんど無くなる。吸口寄りの直径は1.2cmである。筒内に羅字の一部が残存している。銅製である。
2	金属器 煙管吸口	②-400	完存	7.0	1.1		6	煙口寄りの直径1.1cmを測る。端部から2.5cmで直径を急遽に狭め、吸口部における径は0.4×0.3cmである。銅製である。
3	金属器 煙管煙首	②-400	完存	6.1	1.1		6	火皿は直径1.5cmを測り、やや彎曲する磨返しに接合されている。吸口寄りの端部の直径は1.1cmを測る。銅製である。
4	金属器 煙管吸口	②-400	完存	6.2			3	煙首寄りの直径1.0cmを測る。吸口寄りは断面がやや楕長に潰れ、径0.5×0.3cmを測る。羅字の一部が残存していた。銅製である。
5	木製品 漆碗	②埋没土	口縁部欠損 台 6.2 高 (7.0)	(9.9)	(5.4)	0.2~		材は軟らかい広葉樹。腰部の張りの強い江戸時代の産物。内外面とも全面赤漆塗りで、やや暗めの発色。
6	木製品 漆皿少	②埋没土	口縁下~ 高台際 1/4	(9.9)	(5.4)	0.2~ 0.5		材は広葉樹。土圧で扁平化し器種は不明だが、皿か大振りの杓と思われる。内外面とも赤漆塗り。漆塗り後の小孔は木の根によるものか。外面は被熱し一部で炭化し、この粉状の下塗り材が露出している。
No	種別 器種	出土状況 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土・釉 ②焼成③色調		成・整形の特徴		備考
7	陶器 碗	②埋没土	残 1/3 口 10.0 台4.6 高7.2	①やや緻密、透明釉 ②普通 ③断面淡灰色		陶胎染付け。山水意匠で丁寧な作り。厚手で重量。		波色見系。
8	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部片 口 (10.4) 高 (3.7)	①やや緻密、透明釉 ②普通 ③断面淡灰色。		陶胎染付け。外面口縁四方薄収。呉須は黒味を帯びた発色。		波色見系。
9	陶器 片口鉢	②埋没土	残 破片 口 (16.2) 高 (6.3)	①いわゆるモグサ土。 灰釉・外面一部銅緑釉 ②普通 ③断面灰黄色		ロクロ痕や強い。外面残存部分下縁は無釉。縦貫入顯著。		瀬戸美濃系。
10	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部下 位~高台部 台4.2 高2.7	①いわゆるモグサ土。 天目釉③普通 ④断面灰黄色		外面残存部分は無釉。内面は黒色。器形・輪長より天目碗。		瀬戸美濃系。
11	陶器 鉢	②埋没土	残 底部 底 (12.4) 高 (3.7)	①ややボソソしている。 鉄釉 ②普通③断面灰黄色		無台。体部下端に面取り。内面ロクロ痕強い。外底に未切り痕と碗類の製品転用と思われる焼き台痕あり。内面に厚い輪化被掛け。		瀬戸美濃系。
12	軟質陶器 手埴り	②埋没土	残 1/3 口 (15.9) 底 (11.0) 高 6.4	①気泡目立つ ②やや硬調 ③断面淡灰色、断面灰黄色		ロクロ使用か。乾燥のすんだ状態でヘラケズリを行い、器面は平滑。1足残存。		在地系。
13	軟質陶器 鉢	②埋没土	残 破片 口 (31.0) 高 (7.0)	①普通 ②普通 ③内面灰黄色		口縁端部外方へ折れる。4号井戸-10と同巧で、同一個体の可能性あり。		在地系。 外面スス付着。
14	陶器 鉢鉢	②埋没土	残 口縁部中 位小破片 高 (3.0)	①鉄釉 ②やや軟調 ③断面橙色味を帯びる。		ロクロ成形。外面ロクロ痕はヘラ状の工具痕。脚目は幅4mmに15条。		残存範囲に使用痕少ない。
No	種別 器種	出土状況 ① 平面 ② 垂直	残存状況	計測値				特徴
			材質	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
15	石製品 石臼上臼	②-300	上臼1/3 径(38.0) 高(11.4)	粗粒輝石 安山岩			(564)	磨挽き臼の欠損品。供給孔の一部が残存するが、引き手孔や軸孔は認められない。片減りが著しく残存部の厚さは6.2~7.5cmとなっていた。磨り面には分潤溝は認められない。火熱を受けている。
16	石製品 石鉢	②埋没土	口縁部 1/4 口(53.0) 高(19.2)	粗粒輝石 安山岩			(830)	石鉢口縁部破片と考えられ、大径である。外面は内磨きみに立ち上がる。口縁部の先端は平坦面をなし、厚さ3cmを測る。内外面、口縁部の先端面とも工具による割線痕が残存し、凹凸が著しい。

No	種別 器種	出土状態 ①平面 ②垂直	残存状況	材質	計測値				特徴
					全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
17	石製品 不明品	②埋没土	口縁部一 部部下端 付近か	粗粒輝石 安山岩	(23.2)	21.5	9.5	(720)	図の左右は欠損しており、原形は不明である。残存部からは管状品あるいは外面に強い稜を有する板状品が想定される。各面とも工具によるハツリ痕が残存しているが、図中の下面及び内面は比較的丁寧な成形が施されている。
18	石製品 容器小	②-300	底部付没 破片小	砂岩	(15.2)	22.8	10.5	(1,415)	紡錘形を呈した原石を一方からくり込んで成形した容器欠損品で、蓋の可能性が考えられる。外面は自然面である。くり込みの成形は丁寧で、側面は垂直を、天井面は平坦を意識している。欠損は旧時の可能性もある。断面は菱形に近い。使用面は4面で表面は著しい凹状、左側面もわずかな凹状を呈する。
19	石製品 砥石	②埋没土	両端欠	粗粒輝石 安山岩	(10.0)	5.7	3.5	(246)	

## 7号井戸 (第103・104図、P.L22)

No	種別 器種	出土状態 ①平面 ②垂直	残存状況	計測値				特徴
				全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
1	木製品 漆椀	②埋没土	底部2/3 高(2.3)					5号井戸-5と同ク。高台部が剥落している。内外面とも赤漆塗り。
No	種別 器種	出土状態 ①平面 ②垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土・釉 ②焼成③色調		成・整形の特徴		備考
2	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部下 位～高台部 台 5.2 高 (3.5)	①胎土 ②普通 ③断面淡灰色		尾呂茶碗。高台周辺無釉。やや粗い貫入あり。		瀬戸美濃系。
3	陶器 御付香炉	②下層埋没土	残 口縁若干 一部底面 口 (12.2) 脚8.6 高7.2	①微細な岩片やや多い。 胎土 ②普通 ③断面淡灰色		外底は回転ヘラケズリで余り直を消す。3足 貼り付け。内面は全面施釉。外底は無釉。		瀬戸美濃系。
4	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部下 位～高台部 台 4.2 高 (4.5)	①やや緻密。透明釉 ②普通 ③断面灰白色		兵器手碗。高台内部まで施釉。貫入多い。		肥前。京焼風。
5	陶器 皿	②下層埋没土	残 口縁部一 部残存 口 (12.4) 台4.4 高3.4	①緻密。内面青緑釉・ 外面透明釉 ②普通 ③断面陶灰色		内外面輪掛分け。見込み蛇の目状輪割ぎ。外面 は潰け掛り。高台周辺は無釉。		内野山。破損後に 口縁一部スチ付着。
6	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部下 位～高台部 台 5.2 高 (2.0)	①ややボソボソ。胎土 ②普通 ③断面淡灰色		尾呂茶碗。高台周辺は無釉。見込みの一部に灰 釉がかかる。		瀬戸美濃系。
7	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部下 半破片 高 (3.0)	①普通。胎土 ②普通 ③断面淡灰色		尾呂茶碗。残存部分は全面施釉で高台上端まで 釉がかかる。		瀬戸美濃系。
8	陶器 碗	②下層埋没土	残 口縁部片 高 (4.1)	①透明釉②普通 ③断面灰色		陶胎染付け。呉須の色は淡い。		波佐見系。
9	陶器 灯明皿	②下層埋没土	残 1/2 口 10.6 底5.8 高2.1	①やや緻密で夾雑物なし。 胎土②還元 ③断面灰陶7.5YR3/2		右回転ロクロ成形。底部は切り離し後、口縁部 下半まで回転ヘラケズリ。全面に施釉。		志戸呂系。口縁部 先端に炭化物付着。
10	陶器 鉢鉢	②埋没土	残 口縁部下 位～底部破片 底 (14.2) 高 (6.0)	①大粒の夾雑物多い ②硬質。焼き締まり ③断面青灰色		内面は全面に押し目。		丹波。
11	陶器 鉢鉢	②埋没土	残 口縁部下 位～底部破片 底 (14.2) 高 (9.0)	①白色岩片多い ②焼き締めに近い ③断面青灰色		内面は全面に押し目。10と同ク。		丹波。

近世以降の遺物

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土・釉 ②焼成③色調				成・整形の特徴	備考
				胎土	釉	焼成	色調		
12	軟質陶器 始烙	②埋没土	残 耳部片 高 5.1	①やや緻密②やや硬調 ③内面灰色味を帯び、 断面明度高い	型作り、ロクロ調整。破損した1耳残存。	江戸時代在地系。 外面に多量のスス 付着。			
13	軟質陶器 始烙	②埋没土	残 耳部片 高 5.4	①普通②普通 ③内面灰白色、断面 黒色部分広い	型作り、ロクロ調整。1耳残存。耳部内側やや 磨滅する。	江戸時代在地系。 外面スス付着。			
14	軟質陶器 始烙	②埋没土	残 耳部片 高 5.1	①混入物少ない②やや 硬調③内面灰色、断面 の黒色部分広い	型作り、ロクロ調整。外面に弱い接合痕。1耳 残存。	江戸時代在地系。 外面スス付着。			
15	軟質陶器 始烙	②埋没土	残 破片 口 (35.6) 底 (32.0) 高 5.4	①泥粒、細砂等混入 ②普通 ③内面黒褐色	型作り、ロクロ調整。外面に弱い接合痕。1耳 残存。耳部内側磨滅すむ。	江戸時代在地系。 外面スス付着。			
16	軟質陶器 始烙	②埋没土	残 1/3 口 (39.3) 底 (37.0) 高 5.5	①粗砂等やや多い ②普通 ③内底灰白色	型作り、ロクロ調整。1耳残存。耳部内側やや 磨滅する。内面に刻印らしい窪み2カ所あり。 外底に板状のわずかな圧痕あり。	江戸時代在地系。 外面スス付着。			
17	軟質陶器 始烙	②埋没土	残 破片 口 (36.0) 底 (33.0) 高 5.3	①普通 ②普通 ③内底灰白色、断面橙 色味を帯びる	型作り、ロクロ調整。口縁端部丸い。1耳残存。 耳部内側やや磨滅する。	江戸時代在地系。 外面スス付着。			
18	軟質陶器 始烙	②埋没土	残 破片 口 (43.6) 底 (41.8) 高 5.6	①普通。黒色鉱物やや 多い ②普通 ③外底橙褐色を帯びる	型作り、ロクロ調整。口縁部は直立気味。耳不 明。	江戸時代在地系。 外面スス付着。 破損後に被熱。			
19	軟質陶器 始烙	②埋没土	残 1/3 口 (36.0) 底 (33.8) 高 5.6	①普通 ②普通 ③内底灰白色	型作り、ロクロ調整。口縁部は直立気味。口縁 外面に接合痕顕著。耳不明。	江戸時代在地系。 外面スス付着。			
20	軟質陶器 始烙	②埋没土	残 1/4 口 (35.7) 底 (32.8) 高 5.4	①普通 ②普通 ③内底灰白色	型作り、ロクロ調整。口縁端部丸く、17と同一 個体の可能性。内外面に接合痕残る。耳不明。	江戸時代在地系。 外面スス付着。			
No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況	計測値				特徴	
				材質	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		重量 (g)
21	石製品 砥石	②埋没土	両端欠	砥沢石	(9.4)	2.5	1.5	(57)	上下両端とも欠損している。使用面は4面である。 表面は後打っている。器面に鉄錆状の付着物がみ られる。
22	石製品 砥石	②埋没土	両端欠	砥沢石	(7.9)	3.0	1.7	(59)	上下両端とも欠損する。使用面は表面1面が主体 で、他の面には工具痕が残る。
23	石製品 砥石	②埋没土	1/2	砥沢石	(5.2)	3.2	2.4	(63)	上位の大字は欠損する。使用面は4面であるが、 主体は表面である。器面には鉄錆状に赤褐色に変 色している箇所がみられる。
24	石製品 砥石	②埋没土	完形	軽石	7.2	6.1	1.6	30	二枚貝状の平面形状を呈する。表裏両面とも研磨 されている。表面は弱い凸面状を呈している。

5号土坑 (第106図、P L23)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土②焼成③色調			成・整形の特徴	備考
				胎土	焼成	色調		
1	土師器 甕	②埋没土	残 口~胴部 上位1/4 口 (16.6) 高 (7.7)	①粗砂少量、軽石 ②薄化 ③耀7.5YR7/6	口縁部はくの字状に外反して立ち上がる。外面 は口縁部、胴部ともナデの上に棒状工具による ミガキを施す。胴部内面はヘラナデ。			

## 6号土坑 (第106・107図、P.L23)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況	材質	計 画 値				特 徴
					全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
1	石製品 板碑?	②埋没土	破片	緑色片岩	(10.4)	(6.7)	1.9	(175)	板碑個縁部の破片と考えられる。器面は荒れている。天地不明。

## 10号土坑 (第109図、P.L23)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量 (cm)	①胎土②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	土師器 瓶	②埋没土	残 1/2 口 17.3 底 4.7 高 9.5	①粗砂多量、石英、チャート ②酸化 ③にぶい黄褐色10YR7/4	平底の底部の中央に直径1.5cmの孔が穿たれている。口縁部先端はヨコナア、以下外面は粗雑なナグ。内面はハケメを残し、一切磨いていない。	
2	土師器 杯	②埋没土	残 破片 口 (12.6) 高 (3.8)	①粗砂、赤色粘土粒 ②酸化 ③暗赤褐2.5YR3/6	丸底の底部から弱い稜を経て外傾ぎみに立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はヨコナア。底部外面は下半にヘラケズリを施す。	

## 1号溝 (第111・112図、P.L24)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量 (cm)	①胎土・胎 ②焼成③色調	成・整形の特徴	備考
1	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部下 位～高台部 台 (5.0) 高 (5.1)	①ややボソボソする。 胎土 ②普通 ③断面淡灰色	尾呂系碗。外面でロクロ直や強い。高台周辺に薄い輪化痕跡付。	瀬戸美濃系。
2	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部下 位～高台部 台 (5.8) 高 (3.5)	①1に類似。胎土 ②普通 ③断面淡灰色。輪は緑 色味を帯びる	尾呂系碗。輪はやや厚い。貫入あり。高台周辺は無輪。	瀬戸美濃系。
3	陶器 皿	②埋没土	残 1/3 口 (12.0) 台 (6.0) 高 2.6	①やや緻密。透明胎 ②普通 ③断面淡灰色	鉄絵型紙刷り。輪調は御深井輪状。高台周辺は無輪。	瀬戸美濃系。
4	陶器 皿	②埋没土	残 口縁部下 位～高台部 台 (6.8) 高 (1.2)	①透明胎 ②普通 ③断面淡灰色	鉄絵型紙刷り。輪調は御深井輪状。細貫入顕著。高台内側は無輪。	瀬戸美濃系。
5	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部下 位 (10.0) 高 (6.2)	①ややボソボソする。 透明胎 ②普通③断面灰黄色	呉器手碗。輪は薄く均質。細貫入あり。	肥前。京焼風。
6	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部破 片 口 (10.15) 高 (4.1)	①透明胎 ②不良 ③断面暗灰色	陶胎染付け。焼成不良で呉類は黒色味、輪は波打見系。薄し外面黄灰色味を帯びる。	波打見系。
7	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部破 片 高 (3.4)	①ボソボソする。細岩 片混じり。砂輪か②や や不良③輪の発色悪い	高台周辺は無輪。輪に皸れあり。	瀬戸美濃系。17世紀代。二次被熱あり。
8	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部破 片 口 (9.3) 高 (5.8)	①いわゆるモグサ土。 灰輪・胎土 ②やや不良 ③断面灰黄色	尾呂系碗。高台周辺は無輪。焼成不調で器面はガサガサし、輪の光沢欠く。口縁上端の灰輪も不明瞭。	瀬戸美濃系。
9	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部破 片 口 (10.2) 高 (3.7)	①ややボソボソする。 透明胎 ②普通 ③断面灰黄色	呉器手碗。輪は薄く均質。	肥前。京焼風 5と同一個体の可能性。
10	陶器 皿	①3号墳との 重複部分 ②埋没土	残 破片 口 (11.6) 底 (6.4) 高 2.3	①いわゆるモグサ土。 灰輪②普通 ③断面灰黄色	底部内外面に目跡痕あり。焼き歪みあり。輪は一部で孔漏している。	瀬戸美濃系。 16世紀後半。

近世以降の遺物

No	種別 器種	出土状態 ①平面 ②垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土・釉 ②焼成③色調		成・形の特徴	備考			
				材質	計測値					
No	種別 器種	出土状態 ①平面 ②垂直	残存状況	材質	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	
11	磁器 小碗	②埋没土	残 破片 H (7.7) 台 (3.2) 高 4.45	①透明釉 ②普通 ③断面乳白色					染付け。口縁外縁に雨降り紋。釉の発色はやや淡い。	肥前系。
12	軟質陶器 焙烙	①南側 ②埋没土	残 破片 口 (38.2) 底 (36.2) 高 5.6	①細塵混入 ②やや硬調 ③内面灰黄色味帯びる					型作り、ロクロ調整。口縁は垂直に近い立ち上がり。やや厚手。耳不明。	江戸時代在地系。 外面スス付着。
13	軟質陶器 焙烙	①南側 ②埋没土	残 口縁破片 高 (5.1)	①ややゴツゴツする ②普通 ③内面暗灰色					型作り、ロクロ調整。口縁外面に接合痕。耳不明。	江戸時代在地系。 外面スス付着。
14	軟質陶器 焙烙	①南側 ②埋没土	残 口縁破片 高 (3.5)	①普通②普通 ③内面暗灰色					型作り、ロクロ調整。口縁外面に接合痕顕著。内面に粗い擦痕あり。耳不明。	江戸時代在地系。 外面スス付着。
15	軟質陶器 焙烙	②埋没土	残 1/4 口 (40.2) 底 (37.0) 高 5.3	①赤褐色産物混じる ②普通 ③内面暗灰色。断面は 橙黄色味強い					型作り、ロクロ調整。口縁外面に丁字金へラケズ。口縁内面に絹足の工具で不規則に磨き、やや光沢あり。1耳残存。	江戸時代在地系。 外面スス付着。
16	軟質陶器 焙烙	①南側 ②埋没土	残 底部破片	①粗砂混じる ②やや硬調 ③外面は赤色味を帯びる					型作り、ロクロ調整。重みあり平坦さ欠く。内底に刷印。	江戸時代在地系。
17	軟質陶器 焙烙	②埋没土	残 口縁破片 高 (3.5)	①やや緻密 ②普通 ③内面灰色。断面黒色 部分広い					型作り、ロクロ調整。器面の凹凸多く、平滑さ欠く。耳不明。	江戸時代在地系。 外面わずかにスス付着。
18	軟質陶器 焙烙	②埋没土	残 口縁破片 高 (5.4)	①普通 ②普通 ③内面暗灰色					型作り、ロクロ調整。耳不明。	江戸時代在地系。 外面スス付着。
19	軟質陶器 焙烙	①南側 ②埋没土	残 口縁破片 高 (4.0)	①ゴツゴツで気泡多い ②普通 ③内面黒褐色					型作り、ロクロ調整。厚手だが軽量。口縁上端やや窪む。耳不明。	江戸時代在地系。 外面スス付着。
20	軟質陶器 焙烙	②埋没土	残 口縁破片 高 (4.1)	①普通 ②普通 ③内外面とも灰黄色					型作り、ロクロ調整。口縁外面に接合痕顕著。耳不明。	江戸時代在地系。
21	軟質陶器 薬か	②埋没土	残 破片 高 (15.0)	①普通 ②不十分な還元 ③外面灰色。内面・断面にぶい藍色					外面に平行叩きと思われるが内面のアナは不明。外面に4本1単位の平行沈線走る。	
22	石製品 砥石	②埋没土	一端欠	砥沢石	(11.1)	2.9	2.6	(132)	図上位は欠損している。使用面の主体は表裏2面で両側面、小口面には工具痕が明瞭に残存する。裏面は一部凹面となる部分があるとともに長軸と直交する刃傷が少数認められる。	
23	石製品 砥石	①南側 ②埋没土	一端欠	砥沢石	(9.1)	3.2	2.5	(122)	図上位は欠損している。裏面には旧時欠損の痕跡がみられる。使用面は表面の1面のみで左側面の一部が狭い範囲で使用されている他は他の面にはいずれも工具痕が残る。	
24	石製品 砥石	②埋没土	一端欠	砥沢石	(8.9)	3.1	1.5	(65)	図下位は欠損している。裏面には旧時欠損の痕跡がみられる。使用面は表面の1面のみで左側面の一部が狭い範囲で使用されている他は他の面にはいずれも工具痕が残る。	
25	石製品 砥石	②埋没土	一端欠	砥沢石	(7.4)	3.0	1.7	(58)	図下位は欠損である。使用面は表面が主体で両側面が若干、裏面は皆無の状態である。表面には粗い刃傷が残る。材質はあまり良好ではない。	
26	石製品 砥石	②埋没土	一端欠	砥沢石	(6.1)	2.3	1.7	(41)	図下位は欠損している。使用面は表裏の2面、裏面の断面形は凸面状を呈する。両側面には明瞭な工具痕を残す。炭素吸着の為か、黒灰色を帯びる。上下両端とも欠損する。使用面は表面の1面のみである。材質は粒子が粗く、あまり良好ではない。	
27	石製品 砥石	②埋没土	両端欠	砥沢石	(6.1)	2.5	1.5	(32)		

## 4号溝 (第115・116図、P.L24)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量 (cm)	計 測 値				成・整形の特徴	備 考	
				全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
1	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部 細片 口 (10.2) 高 (1.6)					①透明釉 ②普通 ③断面淡灰色	陶胎染付け。細片からの復元で径・傾きとも不安。呉須の発色は薄い。	波佐見系。
2	磁器 小碗	②埋没土	残 口縁部 細片 口 (10.0) 高 (1.4)					①緻密。透明釉 ②普通 ③断面乳白色	染付け。口縁外端に雨降り紋。1号溝-11に同巧。細片からの復元で径・傾きとも不安。	肥前系。
3	磁器 碗	②埋没土	残 口縁部 口 9.4 高 (2.7)					①緻密。透明釉 ②普通 ③断面灰白色	染付け。雪輪梅樹紋。呉須は鮮明。	肥前系。
4	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部 口 (10.1) 高 (3.3)					①透明釉 ②普通 ③断面灰色	陶胎染付け。外面口縁四方棟紋。呉須は淡い発色。	波佐見系。
5	磁器 碗	②埋没土	残 口縁部 下位-高台部 台 4.6 高 (3.7)					①緻密 ②普通 ③断面乳白色	底部厚い。染付け。雪輪梅樹紋。呉須は鮮明。銘不明。	肥前系。
6	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部 下位破片 高 (4.3)					①透明釉 ②普通 ③断面灰色	陶胎染付け。	波佐見系。
7	陶器 碗	②埋没土	残 口縁部 口 (12.0) 高 (5.8)					①やや緻密。透明釉 ②普通 ③断面淡灰色	陶胎染付け。4号井戸-1と同一の東屋山水意匠。呉須は比較の明瞭な発色。	波佐見系。
8	陶器 鍋	②埋没土	残 口縁部 口 (22.0) 高 (6.4)					①灰輪・内面一部銅緑 釉を普通 ②内面灰黄色	片口の付く器と思われる。ロクロ直やや強い。内面の銅緑釉で施紋。細買入あり。	瀬戸美濃系。 口縁外端やや増成。
9	軟質陶器 焙烙	②埋没土	残 破片 口 (41.4) 底 (37.0) 高 5.5					①普通 ②普通 ③内面灰褐色、断面橙 色味を帯びる	型作り、ロクロ調整。口縁外面下端にヘラケズリ。やや厚手。1耳残存。	江戸時代在地系。 外面スス付着。
10	軟質陶器 火鉢か	②埋没土	残 破片 口 (36.0) 底 高 (10.9)					①率褐色灰物多い ②普通 ③器面はにぶい橙色、 断面黒褐色	ロクロ成形か。貼り付け高台。器面は丁寧なナデで平滑。	在地系。
11	軟質陶器 鍋	②埋没土	残 口縁部 破片 高 (5.7)					①細砂やや多い②普通 ③内面暗灰色、断面黄 褐色	型作り、ロクロ調整。	在地系。外面にスス付着。
No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特 徴		
12	金属器 煙管吸口	②埋没土	完存	6.8	0.8		3	細身の吸口で長さ6.8cm、雁首寄りの直径0.8cmを開る。吸口部の直径は0.3cmである。銅製である。		

## 遺構外出土の遺物 (第118図、P.L46)

No	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量 (cm)	計 測 値				成・整形の特徴	備 考	
				全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
1	陶器 碗	①表探	残 口縁部 口 (10.0) 高 (5.5)					①透明釉 ②普通 ③断面灰黄色	兵器手碗。細買入あり。	肥前。京焼風。
2	陶器 碗	①M-13グリ ッF	残 口縁部 口 (10.3) 高 (3.9)					①透明釉 ②普通 ③断面灰色	陶胎染付け。山水意匠。細買入あり。	波佐見系。
3	陶器 碗	①M-13グリ ッF	残 口縁部 口 (12.0) 高 (5.0)					①透明釉 ②普通 ③断面灰色	陶胎染付け。下平に丸みあり。細買入あり。	波佐見系。

近世以降の遺物

No.	種別 種類	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況 法量(cm)	①胎土・釉 ②施成③色調	成・整形の特徴	備考
4	磁器 碗	①1号墳堀 ②埋没土	残 口縁部片 口 (10.3) 高 (4.6)	①透明釉 ②普通 ③断面灰色	陶胎染付け。	波佐見系。
5	陶器 碗	①M-13グリ ッド	残 口縁部片 口 (10.2) 高 (1.7)	①透明釉 ②普通 ③断面暗灰色	陶胎染付け。微細片からの復元で口径・傾きとも不安。	波佐見系。
6	陶器 碗	①3号墳堀 ②埋没土	残 口縁部片 口 (11.1) 高 (3.0)	①透明釉②普通 ③普通断面灰色、呉須 やや黒色味	陶胎染付け。外面口縁四方縹紋。	波佐見系。
7	陶器 碗	①2号住 ②埋没土	残 口縁部片 口 (7.4) 高 (3.3)	①胎釉 ②普通 ③断面灰黄色	尾呂茶碗か。貫入あり。細片からの復元で口径不安。	瀬戸美濃系。
8	陶器 碗	①9号土坑 ②埋没土	残 口縁部片 口 (10.1) 高 (3.4)	①透明釉 ②普通 ③断面暗灰色	陶胎染付け。外面口縁四方縹紋。細片からの復元で口径不安。	波佐見系。
9	陶器 碗	①1号墳堀 ②埋没土	残 口縁部下 位～高台部片 台 (4.5) 高 (4.0)	①透明釉 ②普通 ③断面灰色	陶胎染付け。貫入あり。	波佐見系。
10	陶器 碗	①5号住 ②埋没土	残 口縁部下 位～高台部片 台5.0高(1.6)	①緻密。胎釉 ②普通 ③断面灰色	備前製品の写しか。登付き部のみ無釉。	瀬戸美濃系。
11	陶器 碗	①8号住 ②埋没土	残 高台部 台 4.2 高 (0.9)	①いわゆるモグサ土 ②普通 ③断面灰黄色	高台周辺無釉。貫入あり。	瀬戸美濃系。
12	陶器 鉢	①M-13グリ ッド	残 高台部周 辺破片 底 (9.0) 高 (3.4)	①やや緻密。透明釉 ②普通 ③断面灰黄色	鉄粒。登付き部を含む全面施釉。	瀬戸美濃系。
13	陶器 碗か	①11号住 ②埋没土	残 口縁部片 口 (11.4) 高 (3.3)	①細顆混じる。胎釉 ②普通 ③断面灰黄色	内面は口縁下で無釉となり、袋物となる。	瀬戸美濃系。
14	陶器 徳利か	①11号住 ②埋没土	残 底部 底 (11.5) 高 (4.1)	①胎釉 ②普通 ③断面灰黄色	無台。内面にも施釉。	瀬戸美濃系。
15	陶器 指鉢	①I-13グリ ッド	残 口縁部片 口 (33.6) 高 (4.4)	①白色岩片顯著 ②破面に焼き絡まり ③断面灰青色	外面に障灰輪顯著。	丹波。
16	陶器 指鉢	①4号住 ②埋没土	残 口縁部片 高 (1.9)	①いわゆるモグサ土。 胎釉 ②普通③断面灰黄色	叩し目は11条以上。	瀬戸美濃系。
17	陶器 指鉢	①11号住 ②埋没土	残 口縁部下 半破片 高 (6.5)	①いわゆるモグサ土。 胎釉②普通 ③断面灰黄色	叩し目は36mmに15条。	瀬戸美濃系。
18	陶器 指鉢	①8号住 ②埋没土	残 口縁上位 破片 高 (3.0)	①黒色鉱物やや多い。 胎釉②普通 ③断面白色味帯びる	叩し目は弱い。	瀬戸美濃系。
19	軟質陶器 始塔	①8号住 ②埋没土	残 口縁部片 高 (5.8)	①赤褐色鉱物粒多い ②普通③内面暗灰色	型作り、ロクロ調整。口縁部・底部ともやや厚手。耳不明。	江戸時代在地系。 外面スス附着。
20	軟質陶器 始塔	①表探	残 口縁破片 口 (38.0) 底 (36.0) 高 (5.2)	①混入物少ない ②普通 ③断面中央の黒色部分 幅広い	型作り、ロクロ調整。1耳残存。口縁外面に接合痕顯著。	江戸時代在地系。 外面スス附着。 耳部内側にスス附着。
21	軟質陶器 始塔	①M-13グリ ッド	残 耳部周辺 破片 高 (5.6)	①赤褐色鉱物少量 ②普通③内面灰色で底 部は濃い	型作り、ロクロ調整。1耳残存。	江戸時代在地系。 外面スス附着。
22	軟質陶器 始塔	①1号墳堀 ②埋没土	残 耳部周辺 破片 高 5.5	①粗砂・赤褐色鉱物や 多い②普通 ③断面赤色味を帯びる	型作り、ロクロ調整。1耳残存。	江戸時代在地系。 外面スス附着。内 面も一部スス附着。



No.	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況	計測値				特徴	
				全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
23	鉄器 刀子	①表探	茎一刀身 一部	(7.9)			(7)	基部寄りの刀身から茎部の残存で、茎反は欠失する。刃部残存長2.7cm、刃部幅1.0cm、厚さ0.2cmを測る。刃部から基部へは直角間を経て移行する。幅0.3cmの輪状の踵が装着され、側裏面が残存する。茎の幅は0.6-0.8cmを測る。	
24	金属器 不明鉄器	①表探	不明	(5.4)		0.5	(21)	板状の破片である。鉄質は悪く、全体に錆ぶくれている。残存幅2.5cm、厚さ0.5cmを測る。	
25	金属器 不明鉄器	①表探	不明	(3.6)	0.3	0.3	(2)	断面四角形の棒状鉄製品で、材質はあまり良くなく、釘と考えられる。	
No.	種別 器種	出土状態 ① 平面 ② 垂直	残存状況	材質	計測値				特徴
					全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
26	石製品 砥石	①11号住	1/2	砥沢石	(6.4)	2.8	1.7	(56)	刃下位は欠損する。使用面は表面が主体で、両側面、裏面にも及ぶが工具痕を残している。器面は黒灰色に変色している。
27	石製品 砥石	①1-13グリップ	一部欠損	砥沢石	(12.8)	2.8	1.5	(88)	上下両端は若干ずつ欠損している。使用面は4面に及ぶが主体は表面1面で他には工具痕が残る。材質はあまり良好ではない。

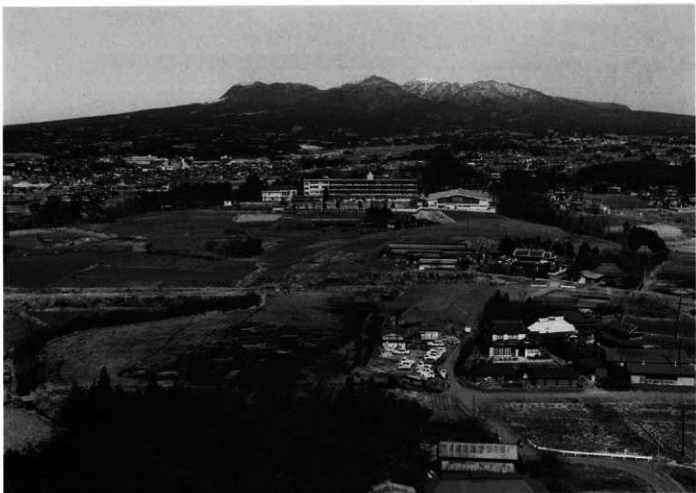


# 写 真 图 版





泉沢谷津遺跡の位置と周辺の地形



1 泉沢谷遺跡の位置（南から）



2 泉沢谷遺跡の位置（北から）



1 調査前の遺跡地（北から）



2 調査前の遺跡地（北東から）



3 調査前の遺跡地（疎散在状況）



4 調査風景（遺構確認）



5 調査風景（縄文時代遺構確認）



6 調査風景（1号墳石室）



7 基本土層



1 14号住居遺物出土状況(北から)



2 14号住居(北から)



3 14号住居埋塞(1)出土状況(北から)



4 14号住居遺物(2)出土状況(北から)



5 9号土坑(西から)





1号住居 (西から)



2 2号住居 (北から)



1 1号住居と遺物出土状況(北から)



2 1号住居と遺物出土状況(南から)



3 2号住居遺物出土状況(西から)



4 2号住居貯蔵穴(東から)



5 2号住居と遺物出土状況(西から)



6 2号住居(西から)



7 2号住居居床下土坑遺物出土状況(南から)



8 2号住居居床下土坑炭化米出土状況(北から)



1 3号住居（北西から）



2 3号住居竈脇遺物出土状況（西から）



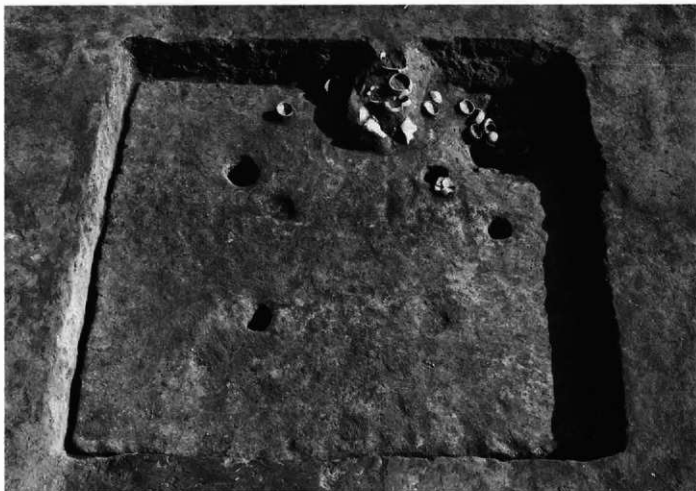
3 3号住居貯蔵穴（北西から）



4 3号住居遺物出土状況（南西から）



5 3号住居竈（南西から）



1 4号住居（西から）



2 4号住居竈と遺物出土状況（西から）



3 4号住居竈（西から）



4 4号住居貯蔵穴（西から）



5 4号住居貯蔵穴内遺物出土状況（東から）



1 5号住居（西から）



2 5号住居東側遺物出土状況（西から）



3 5号住居北東隅遺物出土状況（西から）



4 5号住居竈と遺物出土状況（西から）



5 5号住居竈断面（北西から）



1 6号住居（西から）



2 6号住居北東隅遺物出土状況（西から）



3 6号住居中央遺物出土状況（北から）



4 6号住居竈と遺物出土状況（西から）



5 6号住居竈（西から）



1 7号住居 (西から)



2 7号住居東側遺物出土状況 (西から)



3 7号住居竈と遺物出土状況 (南から)



4 7号住居竈 (西から)



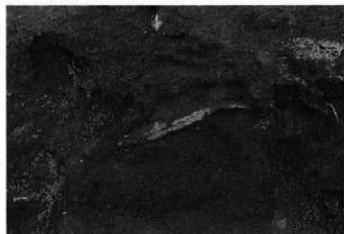
5 7号住居貯藏穴遺物出土状況 (南から)



6 7号住居貯藏穴 (西から)



7 7号住居竈(10)出土状況 (東から)



8 7号住居竈(11)出土状況 (東から)



1 8号住居（北から）



2 8号住居南側遺物出土状況（東から）



3 8号住居貯蔵穴と遺物出土状況（南から）



4 8号住居竈と遺物出土状況（北から）



5 8号住居遺物(13)出土状況（東から）





1 9号住居 (西から)



2 9号住居竈 (西から)



3 9号住居貯蔵穴 (東から)



4 13号住居 (南から)



5 13号住居南東隅遺物出土状況 (西から)



6 13号住居中央遺物(22)出土状況 (北から)



7 13号住居竈遺物出土状況 (西から)



8 13号住居竈 (南から)



1 10号住居（北から）



2 10号住居遺物出土状況（北から）



3 10号住居北側遺物出土状況（東から）



4 10号住居北東側遺物出土状況（南から）



5 10号住居壺遺物出土状況（北から）



6 10号住居竈（北から）



7 10号住居貯蔵穴（北から）



8 10号住居炭化材出土状況（南西から）



1 11号住居（北から）



2 11号住居南東側遺物出土状況（北から）



3 11号住居中央遺物出土状況（北から）



4 11号住居竈（北から）



5 11号住居竈とその周辺（北西から）



1 12号住居（南西から）



2 12号住居埋没土堆積状況（南から）



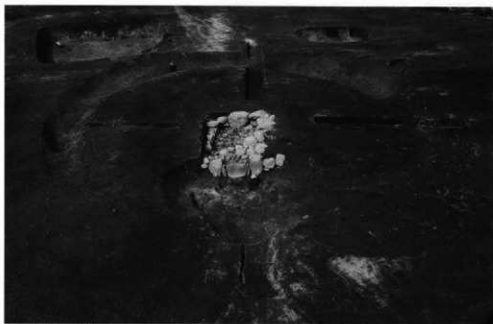
3 12号住居竈（南西から）



4 12号住居貯蔵穴（東から）



5 12号住居砥石(6)出土状況（西から）



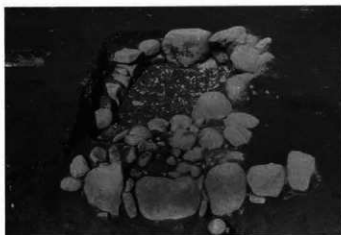
1 1号墳 (南から)



2 1号墳横穴式石室 (東から)



3 1号墳横穴式石室 (西から)



1 1号墳横穴式石室(南から)



2 1号墳横穴式石室狭道部(南から)



3 1号墳横穴式石室狭道部(北から)



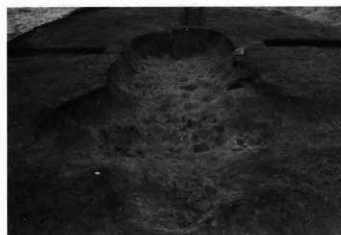
4 1号墳横穴式石室奥壁(南から)



5 1号墳横穴式石室右袖部分(北から)



6 1号墳横穴式石室右奥隅(南から)



7 1号墳横穴式石室堀り方(南から)



8 1号墳横穴式石室堀り方土層断面(南から)



1 2号墳 (南から)



2 2号墳横穴式石室羨道部 (南から)



3 2号墳横穴式石室奥壁 (南から)



4 2号墳横穴式石室 (東から)



5 2号墳横穴式石室廻り方土層堆積状況 (南から)



1 3号墳 (南から)



2 3号墳横穴式石室 (南から)



3 3号墳横穴式石室 (北から)



4 3号墳横穴式石室玄室入り口 (東から)

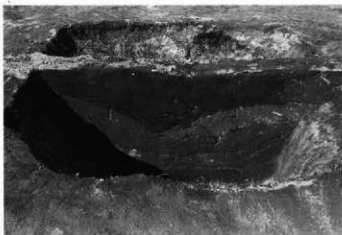


5 3号墳横穴式石室奥壁 (南から)

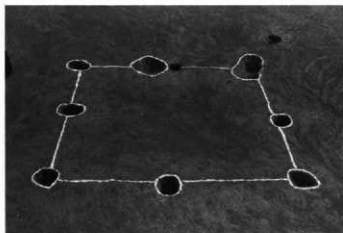




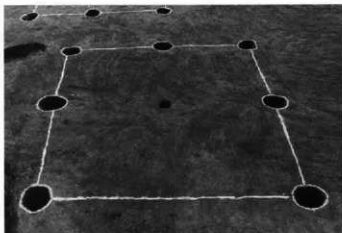
1 1号土坑（北から）



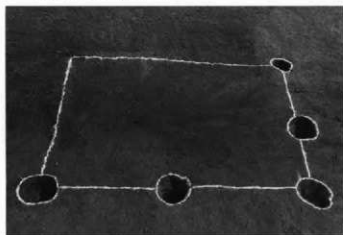
2 1号土坑土層堆積状況（北から）



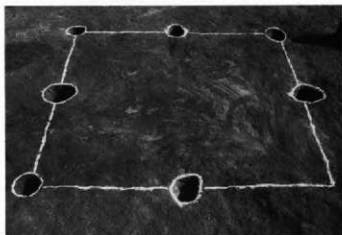
3 1号掘立柱建物（北西から）



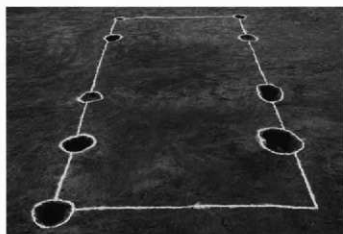
4 2号掘立柱建物（北東から）



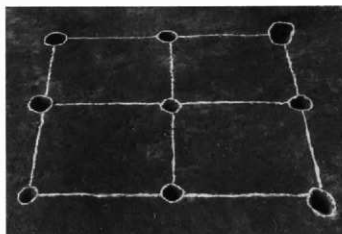
5 3号掘立柱建物（北西から）



6 4号掘立柱建物（北西から）



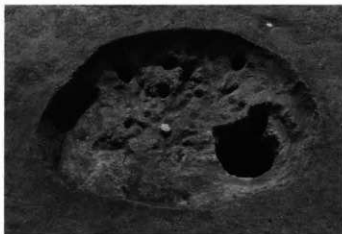
7 5号掘立柱建物（東から）



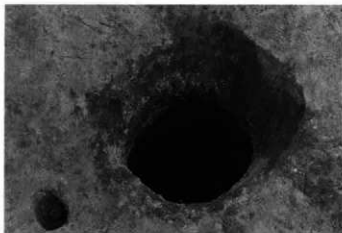
8 6号掘立柱建物（南から）



1 1号井戸 (北から)



2 2号井戸 (東から)



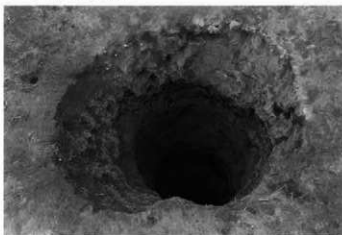
3 3号井戸 (北西から)



4 3号井戸足場の痕跡



5 4号井戸 (東から)



6 5号井戸 (南から)



7 6号井戸 (北から)



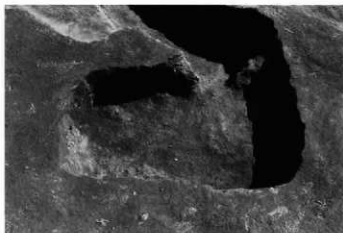
8 7号井戸 (北から)



1 3号土坑(東から)



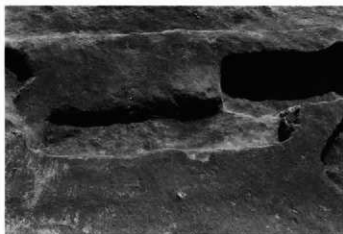
2 4号土坑(北東から)



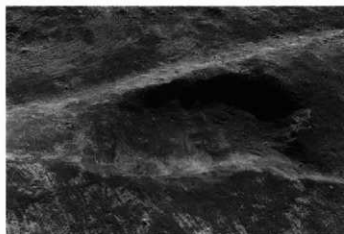
3 5号土坑(北から)



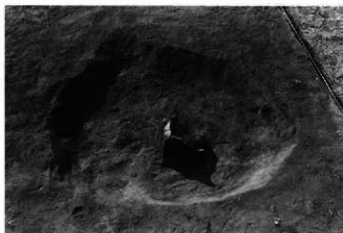
4 6号土坑(北から)



5 7号土坑(北から)



6 8号土坑(北東から)



7 10号土坑(東から)



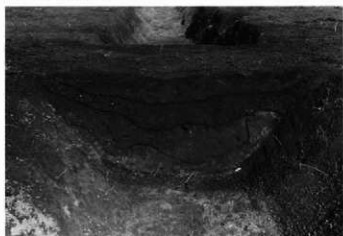
8 11号土坑(北東から)



1 1号溝 (北から)



2 4号溝 (東から)



3 1号溝土層堆積状況 (南から)



4 2号溝 (北から)



5 3号溝 (北から)



6 小穴群 (北から)



14住-1



14住-4



14住-5



14住-2



14住-3



14住-12



14住-14



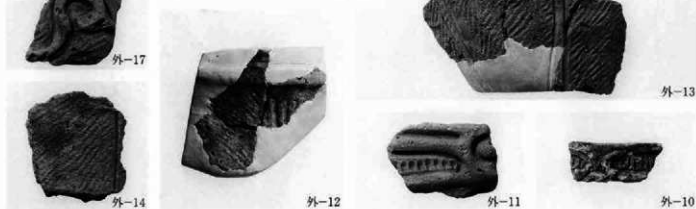
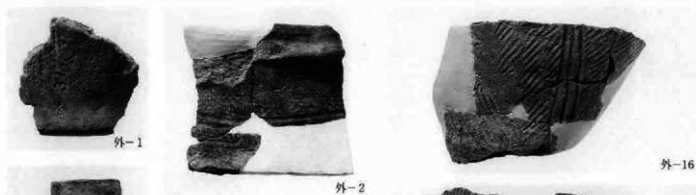
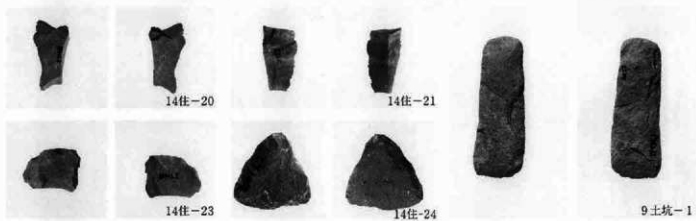
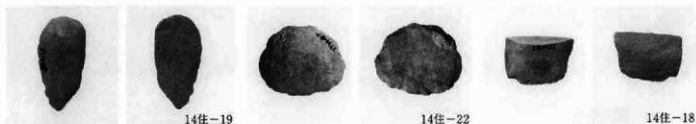
14住-16



14住-15



14住-17





外-19



外-26



外-29



外-67



外-68



外-69



外-70



外-65



外-66



外-32



外-40



外-30



外-46



外-33



外-44



外-48



外-60



外-50



外-51



外-57



外-59



外-75



外-77



外-76



外-71



外-72



外-41



外-42



外-43



外-86



外-85



外-89



外-84



外-81



外-79



外-97



外-92



外-96



外-94



外-80



外-98



外-100



外-101



外-9



外-8

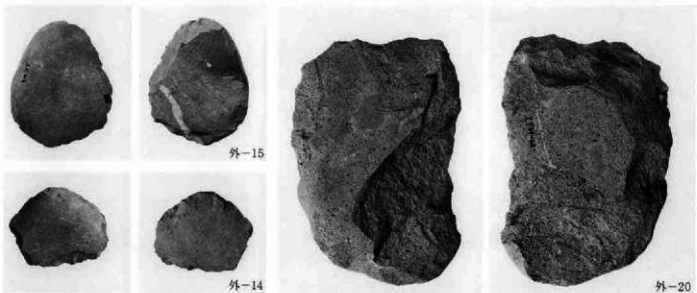
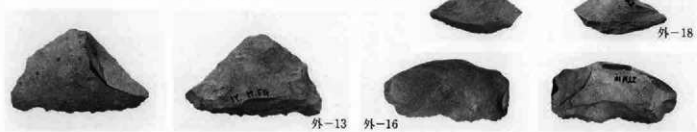
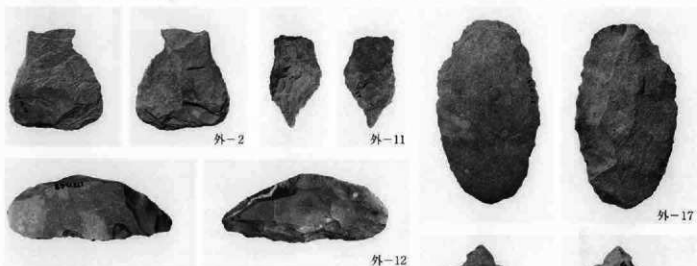


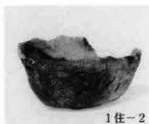
外-5



外-3







1住-2



1住-3



1住-4



1住-12



1住-8



1住-9



1住-13



1住-18



1住-17



1住-14



2住-1



2住-2



2住-3



2住-4



2住-5



2住-8



2住-6



2住-10



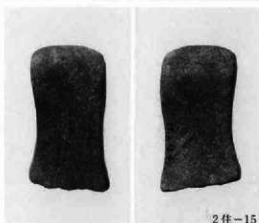
2住-12



2住-9



2住-13



2住-15



3住-2



3住-3



3住-5



3住-6



3住-15



3住-9



3住-16



3 住-17



3 住-20



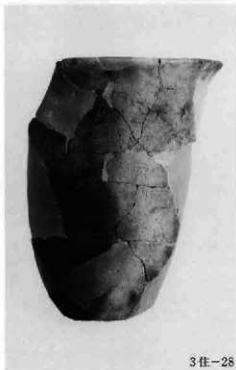
3 住-22



3 住-23



3 住-19



3 住-26



3 住-29



3 住-24



4 住-1



4 住-2



4 住-3



4 住-4



4 住-6



4 住-7



4 住-8



4 住-10



4 住-12



4住-11



4住-13



4住-15



4住-9



4住-14



4住-18



4住-23



4住-22



4住-21



4住-19



4住-20



5住-1



5住-2



5住-6



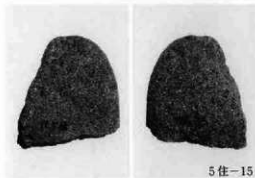
5住-4



5住-5



5住-7





6 住-15



6 住-17



6 住-18



6 住-19



6 住-22



6 住-20



6 住-24



6 住-25



6 住-26



7 住-1



7 住-2



7 住-3



7 住-4



7 住-5



7 住-9



7住-6



7住-7



7住-8



7住-11



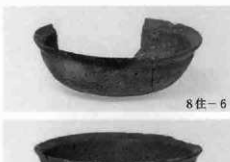
7住-10



8住-1



8住-4



8住-6



8住-2



8住-5



8住-7



8住-3



8住-8



8住-11





8住-12



8住-14



8住-13



9住-1



9住-2



9住-3



9住-4



9住-5



9住-6



10住-1



10住-2



10住-3



10住-6



10住-7



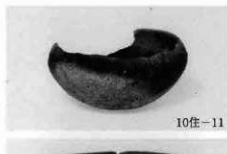
10住-8



10住-9



10住-10



10住-11



10住-13



10住-15



10住-16



10住-17



10住-18



10住-19



10住-21



10住-22



10住-23



10住-27



10住-26



10住-24



10住-28



10住-29



10住-30





10住-40



10住-41



10住-42



10住-43



10住-44



10住-50



10住-47



10住-46



10住-51



10住-54



10住-55



10住-56



10住-57



10住-60



10住-59



11住-1



11住-2



11住-4



11住-7



11住-9



11住-5



11住-11



11住-10



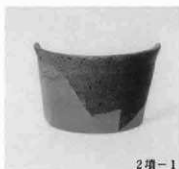
11住-8







1墳-3



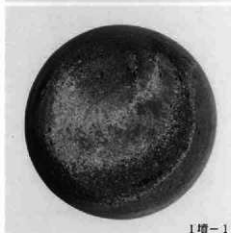
2墳-1



2墳-2



2墳-7



1墳-1



2墳-9



2墳-8

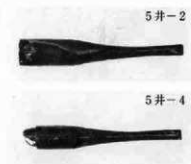
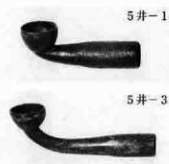


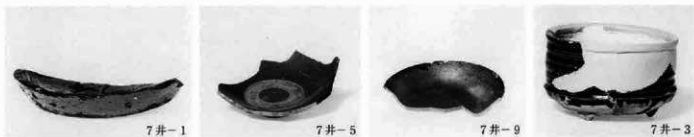
1墳-8



1墳-9





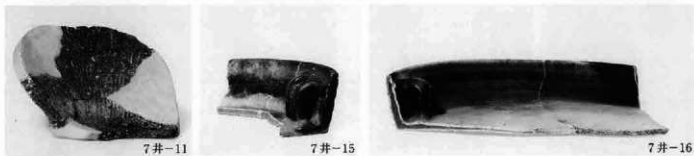


7井-1

7井-5

7井-9

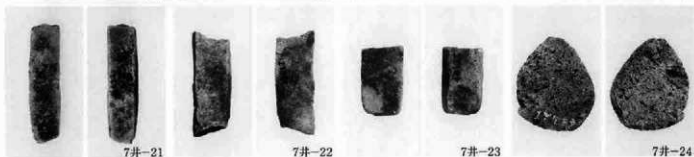
7井-3



7井-11

7井-15

7井-16

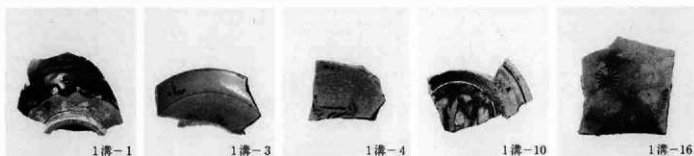


7井-21

7井-22

7井-23

7井-24



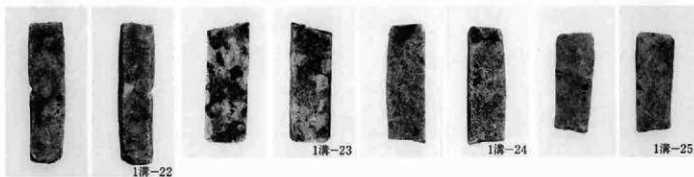
1溝-1

1溝-3

1溝-4

1溝-10

1溝-16

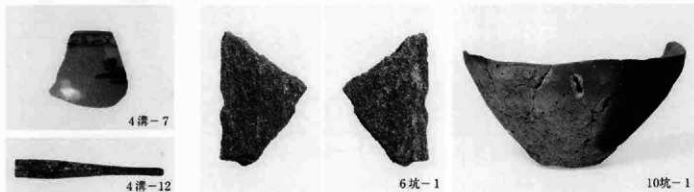


1溝-22

1溝-23

1溝-24

1溝-25



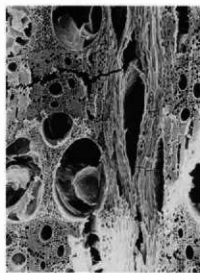
4溝-7

4溝-12

6坑-1

10坑-1

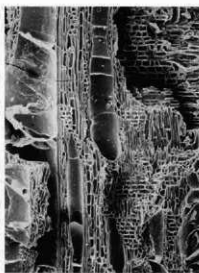
## 泉沢谷津遺跡 I Y10号住出土炭化材走査電子顕微鏡写真



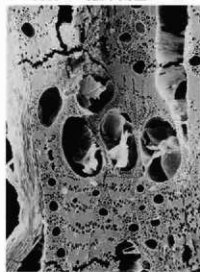
1a クヌギ節 (横断面)  
No10 bar: 0.5mm



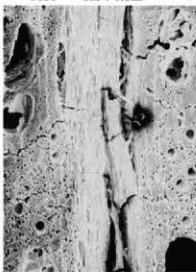
1b クヌギ節 (接線断面)  
No10 bar: 0.5mm



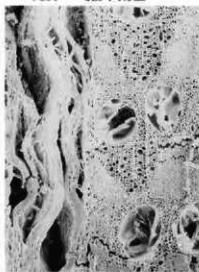
1c クヌギ節 (放射断面)  
No10 bar: 0.5mm



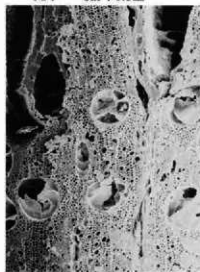
2 クヌギ節 (横断面)  
No4 bar: 0.5mm



3 クヌギ節 (横断面)  
Noナシ bar: 0.5mm



4 コナラ節 (横断面)  
No10 bar: 0.5mm



5a コナラ節 (横断面)  
No8 bar: 0.5mm

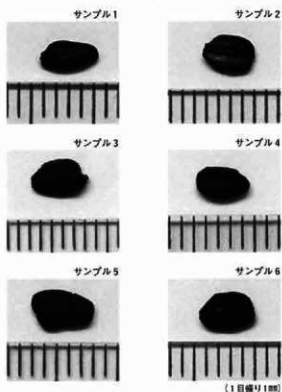


5b コナラ節 (接線断面)  
No8 bar: 0.1mm

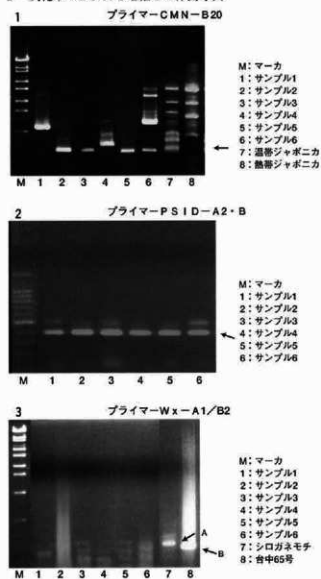


5c コナラ節 (放射断面)  
No8 bar: 0.1mm

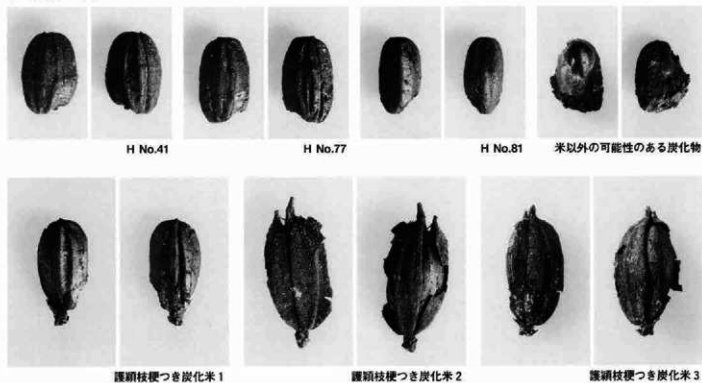
1 DNA分析の炭化米写真



2 炭化米のDNAを増幅した泳動写真



3 炭化米の写真





財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
調査報告第359集

**泉沢谷津遺跡** 《遺物観察表・  
写真図版編》

昭和59年度群馬県埋蔵文化財調査事業団  
北部地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告

平成17年9月21日 印刷

平成17年9月28日 発行

編集・発行／群馬県教育委員会

〒371-8570 前橋市大手町1丁目1番1号

電話 (027) 223-1111(代表)

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／株式会社開文社印刷所

# 泉沢谷津遺跡 全体図

